

平成30年度
北海道博物館事業実績報告書
(事業実績に関する内部評価)

平成31年3月

北海道博物館

目 次

はじめに	1
事業実績に関する評価にあたっての基本的な考え方	2
I. 北海道博物館の概要	3
(1) 設置目的	3
(2) 事業内容	3
(3) 組織	3
(4) 沿革	4
(5) 職員状況	4
(6) 北海道博物館基本的運営方針	4
(7) 中期目標・計画	6
(8) アイヌ民族文化研究センター事業推進方針	6
II. 総括評価	7
(1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置	9
(2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置	9
(3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置	10
(4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置	11
(5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置	12
(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置	13
(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置	14
(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置	15
(9) 各々の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置	16
III. 項目別評価　―第1期中期目標・計画―	
―アイヌ民族文化研究センター事業推進方針―	17

はじめに

本報告書は、北海道博物館の平成30年度事業実績に関する内部評価報告書である。

ここで言う「北海道博物館」とは、北海道立総合博物館条例の第3条で規定する三つの施設、(1)北海道博物館(以下「博物館」という。)、(2)北海道開拓の村(以下「開拓の村」という。)、(3)野幌森林公園自然ふれあい交流館(以下「ふれあい交流館」という。)のうち、(1)のことを指す。

平成30年度に博物館が実施した事業実績に関する内部評価は、博物館が策定した「北海道博物館基本的運営方針」に基づく「中期目標・計画」及び「年度計画」を対象とし、平成30年4月から平成31年1月末までの実績で実施した。平成31年2月中旬に項目別評価を行ない、平成31年2月28日(木)に内部評価委員会を開催し、総括評価を実施した。

なお、博物館の施設及び設備の維持管理、「開拓の村」及び「ふれあい交流館」の管理運営については、指定管理者制度が導入されており、指定管理者に対する評価は、知事が定める管理の目標に対する達成度を毎年度、把握、公表することで行っているため、北海道博物館が行う内部評価の対象外とした。

平成30年度 北海道博物館内部評価委員会 委員名簿

委員長	石森 秀三	北海道博物館 館長
副委員長	山中 剛	北海道博物館 副館長
副委員長	中村 亘	北海道博物館 アイヌ民族文化担当副館長
副委員長	小川 正人	北海道博物館 学芸副館長 兼アイヌ民族文化研究センター長 兼研究部長
委員	川田 宣人	北海道博物館 総務部長
委員	舟山 直治	北海道博物館 学芸部長
委員	右代 啓視	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主幹
委員	堀 繁久	北海道博物館 学芸部博物館基盤グループ学芸主幹
委員	池田 貴夫	北海道博物館 学芸部道民サービスグループ学芸主幹
委員	水島 未記	北海道博物館 学芸部社会貢献グループ学芸主幹
委員	甲地 利恵	北海道博物館 アイヌ文化研究グループ研究主幹
委員	林 淳一	北海道環境生活部 文化局 文化振興課主査
委員	栗原 肇	北海道環境生活部 アイヌ政策推進局主幹

事務局	北海道博物館 総務部企画グループ
-----	------------------

事業実績に関する内部評価にあたっての基本的な考え方

博物館は、「基本計画」の第2章6項（4）「博物館運営の評価」の趣旨に基づき、平成30年度の事業実績に関する内部評価を実施した。

なお、博物館は博物館法で定める「登録博物館」、「公立博物館」に該当する施設ではないが、内部評価を実施するに当たっては、「博物館法」第9条ならびに「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（文部科学省告示第165号）の第4条1項の規程を参考にして実施した。

博物館が具体的に内部評価を行うに当たっては、当館が策定した「北海道博物館内部評価実施要領」により次のように実施した。

〇目 的

- ・博物館が策定した基本的運営方針の達成状況等を自ら点検し、改善を図ること。
- ・評価を通じて、博物館の課題・成果を館外で共有してアカウンタビリティ（責任説明）を明確にして、博物館の運営状況をわかりやすく道民に示すこと。

〇評価の実施

博物館は、第1期中期目標・計画期間（平成27年度～平成31年度）における平成30年度（平成30年4月から平成31年1月末まで）の事業実績に関して、次の内部評価を行った。

ア. 項目別評価

各グループが実施した事業に関する点検作業の結果に基づいて、年度計画の項目ごとに、各グループのグループリーダー（主幹、学芸主幹、研究主幹）が年度事業の実績ならびに達成状況や課題を記述するとともに、評価基準により評価を行った。

イ. 総括評価

項目別評価の結果に基づいて、博物館が設置した「北海道博物館内部評価委員会」において、全体及び特記事項について記述式により評価を行った。

〇項目別評価・総括評価の基準

評価基準	判断の目安	
	取組の項目に関する事項 （右欄の項目以外の項目）	数値目標の項目に関する事項
S 上回って実施している	取組の結果、所期の成果等を上回ったとき	達成度が90%以上 （S、A の評価は取組状況を勘案の上、判断する。）
A 十分に実施している	取組の結果、所期の成果等を得たとき	
B 十分に実施していない	取り組んではいるが、所期の成果等を得られなかったとき	達成度が90%未満 （B、C の評価は取組状況を勘案の上、判断する。）
C 実施していない	取組が行われていないとき	

I. 北海道博物館の概要

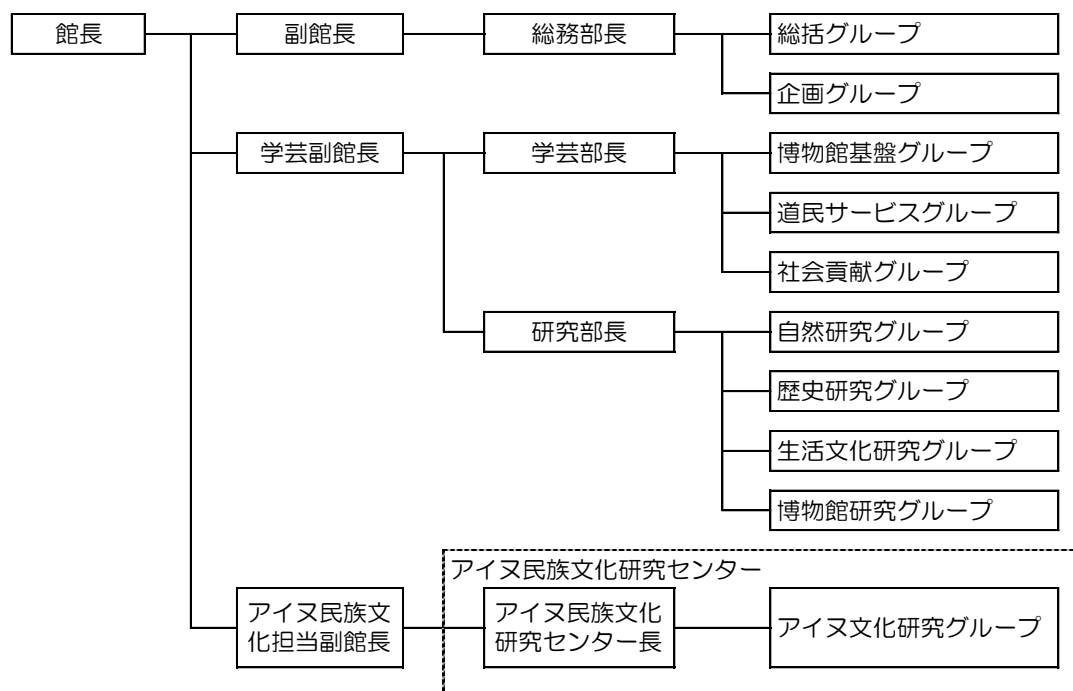
(1) 設置目的

北海道の自然・歴史・文化等に関する資料を総合的に収集し、保管し、展示し、並びにこれらに関する調査研究及びその成果の普及を行うことにより、道民の教養の向上及び文化の発展に寄与する。

(2) 事業内容

- ア 北海道の自然・歴史・文化等に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- イ 収集し、保管し、又は展示する資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
- ウ 資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行うこと。
- エ アイヌ民族文化に関する調査研究及びその成果の普及、情報の収集及び提供並びに研究の支援を行うこと。
- オ 北海道の自然・歴史・文化等に関する講演会、展示会等の催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。
- カ 特別展示室及びその附属設備を北海道の自然・歴史・文化等に関する講演会、展示会等の催しの利用に供すること。
- キ 資料に関し、案内書、解説書、目録、研究紀要等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。
- ク 他の博物館等と連携し、及びこれらの研究活動等に協力すること。

(3) 組織（平成27～30年度）



(4) 沿革

1971（昭和 46）年に設置された北海道開拓記念館は、北海道百年記念事業の一つとして開設された歴史系博物館である。開館以来、北海道開拓のなかで産み出された文化財を中心にさまざまな歴史資料を収集保存、調査研究し、それらを体系的に整えるとともに、常設展示を核とする展示活動や教育普及の諸事業を通して、北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしてきた。

1994（平成 6）年に設置された道立アイヌ民族文化研究センターは、アイヌ民族文化に関する調査研究を行い、その成果の普及等を図り、もってアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的として設置された。アイヌ民族文化の中でも継承が急務とされた、言語・口承文芸、芸能、伝統的生活技術等の無形の伝承文化を中心とした調査研究を行うと共に、その理解に欠かさない歴史についての調査研究を行い、その成果の普及に努めてきた。

2008（平成 20）年 6 月に国会で「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が採択され、その後政府が設置した「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」の報告書において、アイヌ文化に係る政策の提言がなされた。そうしたアイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心の高まりに伴い、両施設はさらなる研究の推進や、最新の研究成果に基づく展示や学習の機会、情報発信の充実が求められることとなった。また、道民の学習ニーズの多様化など、開拓記念館や道内の博物館を取り巻く社会情勢の大きな変化への対応が求められることとなった。

こうした状況の中、北海道は平成 20 年に北海道文化審議会に対して「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問し、その答申を受けて平成 22 年 9 月に「北海道博物館基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定した。「基本計画」は「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の 3 つを柱とする北海道博物館の設置を目指すこととした。この中で、「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」として、アイヌ民族文化研究センターとの統合により、アイヌ文化に関する調査研究等の機能を充実することなどが「基本計画」の中に定められた。そして、平成 27 年 4 月 1 日に北海道開拓記念館と道立アイヌ民族文化研究センターの 2 つの道立施設を統合し、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として『北海道博物館』を開設した。また開館に先立って、愛称を「森のちゃれんが」（道民公募）とし、新しいロゴマーク（民間企業等からの公募）を作成した。

(5) 職員状況（平成 31 年 3 月現在）

（人）

区 分	特 別 職	局室長級	課 長 級	主 幹 級	主 査 級	一 般 職	計
行 政 職		1	1	(1)	3	2	7 (1)
研 究 職		1	1 (2)	6	11	11	30 (2)
非 常 勤	4					11	15
計	4	2	2 (2)	6 (1)	14	24	52 (3)

※括弧は兼務

(6) 北海道博物館基本的運営方針

ア 北海道博物館の使命

○ 北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならで

はの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。

- 野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。
- 北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。
- 北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

イ 基本方針

1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります

- (1) 総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。
- (2) 道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができ博物館づくりを推進します。

2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します

- (1) さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。
- (2) 博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します

- (1) 北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。
- (2) 博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。

- (1) 北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。
- (2) アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

ウ 中期目標・計画の策定及び点検・評価の実施

北海道博物館が社会的使命を果たすため、基本方針を踏まえ、資料の収集保存、展示、教育普及、調査研究などの博物館活動の実施に関する中期的な目標・計画を別に策定し、これを公表するとともに、本方針及び中期目標・計画に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、その運営状況について、点検及び評価を行います。

(7) 中期目標・計画

第1期中期目標・計画（平成27年度～平成31年度）については、基本的運営方針に基づき、次の3つの柱を重点項目として進める。

- ① 総合博物館かつ中核的博物館としての基本的な機能の充実や社会貢献など、信頼の確保に向けた取組を進める。
- ② 総合展示の入替えやイベントの充実など、来館者が繰り返し訪れるための魅力ある取組を進める。
- ③ 道民の興味を喚起させる展示、イベント、広報の充実など、これまで博物館を利用しなかった道民が北海道博物館を訪れるための誘導力のある取組を進める。

(8) アイヌ民族文化研究センター事業推進方針

第1期中期目標・計画と整合を図った「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成26～31年度）補訂版」については、(7)の3つの柱を重点項目として進める。

〔経緯〕 第1期中期目標・計画（平成27年度～平成31年度）のアイヌ文化関連の項目は、平成25年度にアイヌ民族文化研究センター運営協議会の決定を以て策定された「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成25～30年度）」を継承しながら策定された。統合後の平成27年11月には北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会が開催され、展示、教育普及等について第1期中期目標・計画との整合性を図った「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成26～31年度）補訂版」が了承された。

Ⅱ．総括評価

平成30年度 北海道博物館総括評価結果

総括評価 No.	視 点	評価 基準
1・2	(1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置 (2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置	A
3	(3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置	A
4	(4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置	B
5	(5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置	A
6	(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置	B
7	(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置。	A
8	(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置	A
9	(9) 各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置	A

総括評価No.	1・2	対象とする中期目標・計画No.	1～4
---------	-----	-----------------	-----

北海道博物館基本的運営方針

- 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります。
 - (1)総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。
 - (2)道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
1	A	・未登録資料の整理・受入	基盤G
2	A	・公開承認施設としての資料保存環境の整備	基盤G
3	A	・総合展示の維持管理と資料の入替	基盤G
4	A	・総合博物館として様々な企画展を計画・実施	基盤G
5	A	・総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施	基盤G
6	A	・科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得	基盤G
7	A	・建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施。 ・建造物の内部展示の改修計画の策定。 ・北海道150年に向けた「北海道百年記念施設」のあり方検討。	企画G

総括評価		
視点	(1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置 (2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置	評価基準
総評	①評価すべき取組 ○企画テーマ展と連動し、スタンプラリーや資料展示を総合展示室内で展開したことなどによる総合展示利用者の増加（前年度同時期 74,554人→91,308人）。（項目No.3） ○外部連携展示として、国立科学博物館と連携した「生命のれきし」展を開催し、13,000人を超える入場者を迎えた。（項目No.4） ○三重県総合博物館・道立帯広美術館と共同で特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」を開催し、約45,000人の入場者を迎えた。（項目No.4） ○ロイヤル・アルバート博物館との共同研究の継続に関する覚書の調印。（項目No.5） ○地方創生拠点交付金を活用し、開拓の村の歴史的建造物の改修工事を実施。（項目No.7） ○平成30年台風21号・北海道胆振東部地震発生時における迅速な災害対応。（被災博物館園への支援→項目No.2、開拓の村における建造物の修繕→項目No.7） ②改善・注視を要する取組 ○収蔵資料データベースの整備は引き続き必要。特にシステム更新のタイミング（平成32年度）に向けた議論は重要。（項目No.2） ○入館者は増加したが、学校団体の伸びは想定したほど大きくない。道内小中学校の課外活動先として定着しつつはあるものの、道外学校（修学旅行）については、台風・地震によるキャンセルもあった。（項目No.3） ○台風・地震の影響もあり、総合展示利用者全体に占める外国人利用者の割合は減少。（前年度同時期 5.4%→4.7%）（項目No.3） ③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は妥当であり、総体としてA評価とする。	A

総括評価No.	3	対象となる中期目標・計画No.	5、6、8～10
---------	---	-----------------	----------

北海道博物館基本的運営方針

2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します。

(1) さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
8	A	・子ども向けの魅力あるイベントの充実	道民G
9	A	・あらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法の策定	道民G
10	A	・はっけん広場の利用者促進	道民G
11	A	・ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取組	社貢G
12	B	・アメニティ施設の設置 ・オリジナルグッズの販売 ・施設の活用に向けた基準の策定	総括G
13	B	・サインの仕様や設置費の確保、設置箇所等の検討、土地所有者への協力依頼	総括G
14	A	・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	総括G
15	A	・利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践	道民G
16	B	・「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動	道民G
17	A	・北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）の運営と実施。 ・内部評価の計画的実施。 ・オーディエンス・リサーチの実施とその検討。 ・第2期中期目標・計画（平成32～36年度）の検討。	企画G

総括評価		
視点	(3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取組 ○バリアフリー化の取組として、視覚障がい者にも対応した教材開発に着手。（項目No.9） ○学校団体向けワークシートを開発し、当館を利用する際の利便性向上に努めた。（項目No.9） ○総合展示室・特別展示室の入館者数増加にともなう、体験コーナー「はっけん広場」の利用者数（前年度同時期 18,585人→19,673人）の増加。（項目No.10） ○前年度に引き続き、道外の学校団体の誘致を実施。（項目No.15） ②改善・注視を要する取組 ○教材や施設・設備等、博物館のバリアフリー化を進める取組を継続する。そのため、本庁関係部局等と連携し、継続的な予算の確保が必要。（項目No.9・12） ○アイヌ民族博物館（白老町）の閉館にともなう、当館の学校団体利用の伸びは想定していたほど大きくなかった。今後、特に道外の学校の修学旅行先としての誘致に向けた広報の強化が必要。（項目No.15） ○「北海道博物館赤れんがサテライト」での広報活動の展開が不十分。（項目No.16） ○オーディエンス・リサーチ未実施。今後は予算上の措置の検討も必要となる。（項目No.17） ③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した広報活動や、施設・設備を含めた博物館のバリアフリー化の推進など、強化・改善が必要な課題は残るものの、広報（道外学校団体の誘致）やバリアフリー化（教材開発）など、道内外のあらゆる人に親しまれる博物館に向けた、新たな取組を進められたことから、総体としてA評価とする。	A

総括評価No.	4
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	7、10
-----------------	------

北海道博物館基本的運営方針

2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します。

(2) 博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけではなく、協働者、ときには 発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
17	A	- 北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）の運営と実施。 - 内部評価の計画的実施。 - オーディエンス・リサーチの実施とその検討。 - 第2期中期目標・計画（平成32～36年度）の検討。	企画G
18	B	道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立。	企画G

総括評価		
視点	（4）道民との連携、協働する博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取組 ○満足度調査における高い数値。（平均91.4%）（項目No.17） ○道民参加型組織の展開に向けた試行的な取組として、図書室における「図書室支援員」を設置。（項目No.18） ○企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」ならびに野幌森林公園インベントリー調査における道民参加。（項目No.18） ②改善・注視を要する取組 ○内部評価の改善・効率化が必要（目標数値の考え方（設定方法）の基準、自己評価の書き方、重複する項目の整理 など）。（項目No.17） ○内部評価等に使用する実績数値の集約の合理化が必要（実績等の各数値を一元的にカウント・集約する仕組みづくり）。（項目No.17） ○試行的な取組を発展させて、道民参加型組織（パートナー）の整備・実施に向けた取組を進めることが必要。その実施・運営に向けた体制を整備する。（項目No.18） ③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 北海道立総合博物館協議会や内部評価については、計画どおりに開催しているが、内部評価における数値集約の方法等について合理化・改善の余地が明らかであることや、道民参加型組織の導入に向けては試行的な取組にとどまっている点など、課題があることを重視し、総体としてはB評価とする。	B

総括評価No.	5
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	11
-----------------	----

北海道博物館基本的運営方針

3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します。

(1) 北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
19	A	・質の高い連携による、企業や民間団体、図書館、博物館、自治体等との連携・協力事業の実施	社貢G

総括評価		
視点	(5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置	評価基準
総評	①評価すべき取組	A
	○平成30年台風21号・北海道胆振東部地震発生時に北海道博物館協会加盟館園の被災状況について、同協会事務局として迅速に調査・取りまとめを行い、被災状況リストを随時公開した。このことにより、地域における被災館園への支援等に貢献することができた。 ○国立科学博物館・北海道博物館協会と連携して文化庁主催による「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」に参画し、道内各地での研修等の実施に向けた支援を行い、博物館交流の促進等、道内の中核的博物館としての役割を果たした。	
	②改善・注視を要する取組	
	○外部機関との連携・協力件数については、書面による依頼状をとみなわない案件についても反映できるよう、客観的・網羅的に集計する仕組みが必要。	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠）	
	項目別評価は概ね妥当であり、総体としてA評価とする。	

総括評価No.	6
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	12
-----------------	----

北海道博物館基本的運営方針

- 3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します。
 (2) 博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
20	B	・図書室の蔵書の充実及び利用促進 ・レファレンスサービスの記録化及び活用	社貢G

総括評価		
視点	(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取組 ○当館図書室における司書の補助的業務を行う「図書室支援員」制度を試行的に導入し、利用者への利便性向上を図った。	B
	②改善・注視を要する取組 ○平成32年度に行う情報システム更新に向けた、システム全体の包括的な検討、ウェブサイトやSNSによる情報発信力の強化などについて、全館的に検討していく必要があり、課題の明確化と体制の整備が、引き続き課題である。 ○レファレンス内容について、記録率の向上に努めたものの、サービス向上のために館内で情報を共有する仕組みづくりが課題。	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は概ね妥当であり、総体としてB評価とする。	

総括評価No.	7	対象とする中期目標・計画No.	13、14
---------	---	-----------------	-------

北海道博物館基本的運営方針

4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。

(1) 北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
21	A	・博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成 ・博物館学系領域の充実化	社貢G
22	A	・研究成果の多様な発信	社貢G
23	A	・道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制づくり	企画G

総括評価		
視点	(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置。	評価基準
総評	①評価すべき取組 ○博物館実習・インターンシップについては、依頼に対し、ほぼ100%を受け入れた。（項目No.21） ○国立科学博物館・北海道博物館協会と連携して参画した「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」によって、道内各地で研修等を実施したことで、博物館学系研修会への参加人数が大幅に増加した。（前年度同時期 4件7人→11件38人）（項目No.21） ○職員の対外貢献としては、学会発表や学術誌等への投稿など研究成果の発信に努めるとともに、特に北海道150年・特別展関連の依頼講演等について積極的に対応した。（項目No.22） ○「北海道150年事業」の一環として、特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」展を開催するにともない、150年事業室と連携し、松浦武四郎関連の取組に対する専門的知識の提供を行った。（項目No.23）	A
	②改善・注視を要する取組 ○今年度は道内で博物館学系研修会が多く開催されたことや、当館の新採用職員が多かったことが背景にあり、前年度に比べて研修会に派遣した延べ人数も多かったが、館職員の資質向上のため、来年度以降も引き続き、館として研修への参加者を判断するなど、組織的かつ継続的な取組が必要となる。（項目No.21）	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は概ね妥当であり、総体としてA評価とする。	

総括評価No.	8	対象	アイヌ民族文化研究センター実施分
---------	---	----	------------------

北海道博物館基本的運営方針

4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。

(2) アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
1	B	・クローズアップ展示3、4の計画策定。計画には多様な分野・テーマを盛り込むよう留意 ・アイヌ文化Q&Aの定期的な追加・更新実施 ・総合展示資料の入れ替え基準を定め、入れ替え計画策定	アイヌ研
2	A	・第4回巡回展の開催。 ・平成31年度以降の企画テーマ展、巡回展等の開催計画の策定。特別展開催に関する検討。	アイヌ研
3	A	・調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる。	アイヌ研
4	B	・資料の整理・登録・配架の策定 ・計画に基づく資料登録の実施 ・新収蔵資料紹介の継続的实施 ・資料の所在調査等の継続実施	アイヌ研
5	B	・資料群ごとの公開計画の策定 ・計画に基づく新規公開の実施	アイヌ研
6	B	・ウェブサイト（ホームページ）の更新計画の策定 ・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料・コンテンツの追加	アイヌ研
7	B	・ホームページ等での情報発信の再開 ・レファレンス記録票の集約・報告時期の定例化	アイヌ研
8	A	・アイヌ文化に関する普及事業の効果的な実施体制	アイヌ研
9	A	・研究紀要、企画テーマ展等を通して研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる。	アイヌ研

総括評価		
視点	(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置	評価基準
総評	①評価すべき取組 ○特定重点によるアイヌ文化施策の予算により、アイヌ文化巡回展の回数の増加（前年度 1回→2回）。特に環境省の施設である層雲峡ビジターセンター（上川町）における来場者数（8,792人）ならびに展示の満足度（94.1%）の実績値が高かったことは、アイヌ文化に興味がない層に向けた普及の取組として、高い効果を上げたと言える。（項目No.2） ○アイヌ文化紹介小冊子（全9冊）を増刷。また今年度から2か年で「アイヌ語アーカイブ」の整備に着手。（項目No.6、9） ②改善・注視を要する取組 ○巡回先の都合に左右されるとはいえ、アイヌ文化巡回展におけるアンケート回答数が少ない場合があり、満足度の評価において注意が必要となる。（項目No.2） ③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 資料の整理・公開など、前年度以前から引き続いての課題も多いものの、2回の巡回展の開催、「アイヌ文化紹介小冊子」の増刷など、今年度は、前年度までよりも広くアイヌ文化を紹介する事業を多く実施できたことから、総体としてA評価とする。	A

総括評価No.	9	対象とする中期目標・計画No.	
---------	---	-----------------	--

外部評価項目 ガバナンス体制の育成 平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
24	B	・課題の共有と解決	総括G
10	A	・研究センター会議（副館長・センター長・非常勤職員の会議／職員全体の会議等）の定例化	アイヌ研
25	A	・課題の共有と解決	文化振興課

総括評価		
視点	（9）各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置	評価基準
総評	①評価すべき取組 ○懸案事項等、課題解決に向けて本庁関係部局と協議し、災害関連予算をはじめ、特別展や北海道開拓の村建造物改修の予算確保及び学芸職員の採用などによる体制の強化につなげた。（項目No.24） ○北海道胆振東部地震における被災地（避難所）への人員派遣について、道庁（本庁）からの要請に迅速に対応。（項目No.24） ○「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営、「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」策定、指定管理者の更新など、道庁（本庁関連部局）との連携・情報共有を図った。（項目No.25） ②改善・注視を要する取組 ○「運営会議」については、館内における意思決定機関としての機能向上を図ることが必要。（項目No.24） ○北海道立総合博物館協議会における意見をはじめ、各部署（グループ）で受ける利用者からの様々な意見や要望を、館として受け止め、対応・反映できる体制づくりは不十分。（項目No.24） ③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 「運営会議」の館内における意思決定機関としての機能向上のほか、道民参加による博物館運営に向けて、多くの課題・改善を要する点も見られるが、本庁（文化振興課）も含めた連携・情報共有体制を強化し、必要な予算の確保や体制の整備を図るなど一定の成果を得られたことから、総体としてA評価とする。	A

Ⅲ. 項目別評価

総括評価・項目別評価 項目一覧

【総括評価項目】

- (1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置
- (2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.1	未登録資料の整理・受入	21
No.2	公開承認施設としての資料保存環境の整備	22
No.3	総合展示の維持管理と資料の入替	23
No.4	総合博物館として様々な企画展を計画・実施	24
No.5	総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施	25
No.6	科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得	26
No.7	建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施 ほか	27

【総括評価項目】

- (3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.8	子ども向けの魅力あるイベントの充実	28
No.9	あらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法の策定	29
No.10	はっけん広場の利用者促進	30
No.11	ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取り組み	31
No.12	アメニティ施設の設置 ほか	32
No.13	サインの仕様や設置費の確保 ほか	33
No.14	野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	34
No.15	利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践	35
No.16	「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動	36
No.17	北海道立総合博物館協議会と専門部会の運営と実施 ほか	37

【総括評価項目】

- (4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.17	北海道立総合博物館協議会と専門部会の運営と実施 ほか	37
No.18	道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立	38

【総括評価項目】

- (5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.19	企業や民間団体、博物館、自治体等との連携・協力事業の実施	39
-------	------------------------------	----

【総括評価項目】

(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.20 図書室の蔵書の充実及び利用促進 ほか	40
--------------------------	----

【総括評価項目】

(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.21 博物館学芸員の後継者及び博物館のコアユーザー育成 ほか	41
No.22 研究成果の多様な発信	42
No.23 道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制づくり	43

【総括評価項目】

(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.1 クローズアップ展示3、4の計画策定 ほか	44
No.2 第4回巡回展の開催 ほか	45
No.3 調査研究や研究内容を検討する時間の確保と研究内容の充実	46
No.4 資料の整理・登録・配架の策定 ほか	47
No.5 資料群ごとの公開計画の策定 ほか	48
No.6 ウェブサイト（ホームページ）の更新計画の策定 ほか	49
No.7 ホームページ等での情報発信の再開 ほか	50
No.8 アイヌ文化に関する普及事業の効果的な実施体制	51
No.9 研究紀要、企画テーマ展等を通して研究成果を積極的に発信	52

【総括評価項目】

(9) 各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.24 課題の共有と解決	53
No.10 研究センター会議の定例化	54
No.25 課題の共有と解決	55

中期目標・計画番号	1-1	目標値番号	1	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1 期中期目標・計画項目					
1 資料の収集・保存					
(1) 資料の収集					
H27		H28	H29	H30	H31
		0			

プライオリティ					
H27		H28	H29	H30	H31
		0			

点検項目集計					
		計	7	0	X
				7	0

中期目標・計画
ア 資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。
イ 収集した資料については、速やかに調査し、適切に整理・分類・登録する。
ウ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについては、展示や研究などにより多くの道民及び関連機関が活用できるように、資料群の全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。

平成30 年度			平成31年度		
年度計画			年度計画 (案)		
目標 (値)			目標 (値) (案)		
未登録資料の整理・受入			未登録資料の整理・受入		
(1) 資料の収集 - 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。 - 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。 - 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。 - 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進めるとともに、整理するための分類を再検討する。			(1) 資料の収集 - 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。 - 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。 - 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。 - 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進める。特に、収蔵番号の受入・登録に係る作業について、再整理のあり方を整備し、事務手続等の効率化を図る。		
【判断数値設定】 (12回) 資料審査会の実施回数 (300件)			【判断数値設定】 (12回) 資料審査会の実施回数 (300件)		
評価基準 A			評価基準 A		
自己評価 - 未登録資料については、資料審査会で進捗状況を明らかにし、順次登録を進めている。事務手続等は滞りないよう、登録などの推進を審査会での働きかけを行っていることが効果を上げている。 - 資料審査会の回数は、10月と11月を合わせて実施したが、登録受入に係る協議、事務手続等に非難なく、年度の予定を進めることができた。 - 資料受入工程の再整備については、事務手続等の効率化を図るべく、事務方式の改善を行った。今年度は試行段階ではあるが、事務が速やかに実施できるという効果が現れた。			自己評価 - 未登録資料については、資料審査会で進捗状況を明らかにし、順次登録を進めている。事務手続等は滞りないよう、登録などの推進を審査会での働きかけを行っていることが効果を上げている。 - 資料審査会の回数は、10月と11月を合わせて実施したが、登録受入に係る協議、事務手続等に非難なく、年度の予定を進めることができた。 - 資料受入工程の再整備については、事務手続等の効率化を図るべく、事務方式の改善を行った。今年度は試行段階ではあるが、事務が速やかに実施できるという効果が現れた。		
達成状況 (1) 資料の収集 - 蝦夷地場所請負人関係の文書資料である、フラーシエム・N・良子資料230件や、研究プロジェクトに基づく白化石など90件 (平成31年2月1日受入れ予定)、継続的に収集している植物標本20件など、貴重な資料群を収集した。 - 寄贈の申し出があった資料の受入の可否を審査する「資料審査会」で対象となった資料計18件中、資料の調査ならびに収集を行ったのは14件である。その内、5件が収蔵資料として受入決定・資料登録を終え、5件が収蔵資料データベースに登録済みであり、4件が既に展示等に活用された。 - 収集資料の調査については、「布地蔵」など、調査を進めるなかで資料の価値が再認識され、受入・登録することになった資料があった。また、昨年度に収集したりんご園蔵書資料についての継続的な調査で、新たな資料を2軒の蔵から収集し、企画テーマ展「りんご蔵書の遺蹟」ならびに総合展示で合わせて公開した。 - 一括コレクション (フラーシエム・N・良子資料) の収集があり、展示にも活用された。この資料については、来年度以降の、一資料一括目録の刊行に向けて資料整理中である。 - 資料審査会において、資料の受入登録を滞りせずに進めるよう、働きかけを行っている。平成30年度第1回資料審査会 (平成30年4月開催) 時点では、過去3年間で資料を受け入れることに決まった55件の資料群のうち、受入・登録のすべての過程 (受入決定・資料登録・収蔵資料データベースへの登録) を終え、かつ展示や刊行物等に活用されたのは、6件の約11%であった。平成30年度第9回資料審査会 (平成31年1月) 時点では、74件中14件と19%ほどに増えている。今年度中には、3割を超える予定である。 - 資料受入件数は目標設定値300件に対して、1月31日までの実績としては249件と目標値に達していないが、2月1日時点で90件を受入れる予定であるため、年度の実績としては目標値を達成する予定である。 - 資料を受け入れるにあたっての工程に関しては、事務に関わる書類一式について、デジタルデータでの作成・取りまとめ方法を一新 (具体的に書類データの形式・様式の整備) できよう、試行した。今年度の試行を経て、来年度には全館的に周知する予定を進めている。			達成状況 (1) 資料の収集 - 蝦夷地場所請負人関係の文書資料である、フラーシエム・N・良子資料230件や、研究プロジェクトに基づく白化石など90件 (平成31年2月1日受入れ予定)、継続的に収集している植物標本20件など、貴重な資料群を収集した。 - 寄贈の申し出があった資料の受入の可否を審査する「資料審査会」で対象となった資料計18件中、資料の調査ならびに収集を行ったのは14件である。その内、5件が収蔵資料として受入決定・資料登録を終え、5件が収蔵資料データベースに登録済みであり、4件が既に展示等に活用された。 - 収集資料の調査については、「布地蔵」など、調査を進めるなかで資料の価値が再認識され、受入・登録することになった資料があった。また、昨年度に収集したりんご園蔵書資料についての継続的な調査で、新たな資料を2軒の蔵から収集し、企画テーマ展「りんご蔵書の遺蹟」ならびに総合展示で合わせて公開した。 - 一括コレクション (フラーシエム・N・良子資料) の収集があり、展示にも活用された。この資料については、来年度以降の、一資料一括目録の刊行に向けて資料整理中である。 - 資料審査会において、資料の受入登録を滞りせずに進めるよう、働きかけを行っている。平成30年度第1回資料審査会 (平成30年4月開催) 時点では、過去3年間で資料を受け入れることに決まった55件の資料群のうち、受入・登録のすべての過程 (受入決定・資料登録・収蔵資料データベースへの登録) を終え、かつ展示や刊行物等に活用されたのは、6件の約11%であった。平成30年度第9回資料審査会 (平成31年1月) 時点では、74件中14件と19%ほどに増えている。今年度中には、3割を超える予定である。 - 資料受入件数は目標設定値300件に対して、1月31日までの実績としては249件と目標値に達していないが、2月1日時点で90件を受入れる予定であるため、年度の実績としては目標値を達成する予定である。 - 資料を受け入れるにあたっての工程に関しては、事務に関わる書類一式について、デジタルデータでの作成・取りまとめ方法を一新 (具体的に書類データの形式・様式の整備) できよう、試行した。今年度の試行を経て、来年度には全館的に周知する予定を進めている。		
目標 (値) 実績 (平成30年4月～平成31年1月) 資料審査会の実施回数 249 回 受入資料件数 249 件			目標 (値) 実績 (平成30年4月～平成31年1月) 資料審査会の実施回数 249 回 受入資料件数 249 件		

中期目標・計画番号	1-2~4	目標値番号	2	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-------	-------	---	----	--------------

第1 期中期目標・計画項目					
1 資料の収集・保存					
(2) 収蔵機能の強化 (3) 資料保存環境の維持 (4) 収蔵資料の利用への対応					
プライオリティ					
	H27	H28	H29	H30	H31
(2) 収蔵機能の強化	○				
(3) 資料保存環境の維持					
(4) 収蔵資料の利用への対応					

中期目標・計画	
(2) 収蔵機能の強化	
ア 収蔵資料データベースの適正な運用により、資料の受入れ、出納やコンディショニング情報を一元的に管理する体制を強化するとともに、利用者への資料情報の提供に役立てる。	
イ 東日本大震災時の教訓を活かし、災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制を整備する。	
ウ 市町村合併など地域社会の急激な変動による資料の散逸などの課題に対し、北海道の中核的博物館として、北海道の自然・歴史・文化遺産を保存・継承するためのプロジェクトを推進し、その受け皿としての収蔵スペースの確保について検討を進める。	
(3) 資料保存環境の維持	
貴重な公共の財産を損かする立場から、温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫害予防対策（IPM）、災害対策などを徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。	
(4) 収蔵資料の利用への対応	
収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応し、より多くの人のくびとが北海道博物館の収蔵資料を利用する機会を創出する。	

平成30年度		項目別評価（平成30年度の実施状況）		平成31年度		
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	
(2) 収蔵機能の強化	公開承認施設としての資料保存環境の整備	・収蔵資料データベースの登録について、登録方法を整理して、滞りがちだった登録を進めた。データベースの今年度更新登録件数は、2463件である。 ・情報システムについて、学芸副館長が中心となり、全館的な検討へシステム診断に向けた対策を取る方向性が確立した。 ・平成30年9月の北海道博物館本部地震では、北海道博物館協会を通じて、厚岸町や安平町などから被災資料の扱いなどについての相談を受け、当該調査を派遣し、保存処理に必要な資料を提供した。 ・特に収まらない品様の恐れがある資料の収集のため、大型資料を収める第2収蔵庫の資料を整理して十分な棚1列分を確保した。 ・資料の性質に合った保存方法の検討については、補修が必要な資料31件の修復を実施した。 (3) 資料保存環境の維持 ・IPM（薬剤だけに頼らない虫害害等の防除対策）について、毎日の収蔵庫巡回により、庫内の害虫駆除113回、庫内の防霉マット交換13回、電子館以外の施設駆除286回、資料の庫内と庫外285回、加通駆除296回を行った。また、収蔵庫内の清掃を5回行った。 (4) 収蔵資料の利用への対応 ・平成28年度以降、総合展示資料のSNSへの画像掲載の自由化により、資料の画像利用（複写品等刊行等）の申請数は、それ以前より減少しているが、特別観覧、複写品等刊行等、資料貸出については、目標以上の利用がある。	・情報システムについては、学芸副館長を中心としたガバナンスの機能により、全館的な検討へシステム診断に向けた対策を取る方向性が確立した。 ・拒振東部地震では、機材や資料、人的支援などの提供を実施してきた。今後は全館的に、機材や災害時対応の体制を整えるなど、さらに対応できる体制を築く必要がある。 ・資料の保管場所確保については、地道な資料整理を行いながら、研究グループと連携して、必要に応じて棚の確保を検討している。 ・IPM体制については、指定管理者や総括グループを含めた情報交換の場を設けていること、収蔵環境調査と問題解決の対応が速やかに行われていることなど、適切な収蔵環境を維持する取組の継続が評価できる。 ・特別観覧、複写品等刊行等は、利用者サービスの向上のため、速やかな業務処理を継続している点が評価できる。	A	・公開承認施設としての資料保存環境の整備 ・データベースの新規登録を進める。 ・収蔵資料データベースの資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。 ・災害発生時における被災資料の受入や保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。 ・収蔵庫各室の用途員直しや資料の性質に合った保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。 (3) 資料保存環境の維持 ・温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫害予防対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。 (4) 収蔵資料の利用への対応 ・収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。	
	(2) 収蔵機能の強化					・公開承認施設としての資料保存環境の整備 ・データベースの新規登録を進める。 ・収蔵資料データベースの資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。 ・災害発生時における被災資料の受入や保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。 ・収蔵庫各室の用途員直しや資料の性質に合った保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。 (3) 資料保存環境の維持 ・温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫害予防対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。 (4) 収蔵資料の利用への対応 ・収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。
		目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月）				
		一元化後の資料登録件数	183,429	件		
		資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数	10	回		
		IPMに関わる作業の実施回数	397	回		
		特別観覧（収蔵資料の熱覧）承認申請数	61	件		
		複写品等刊行等（収蔵資料の出版物等への写真・図版掲載）承認申請数	151	件		
		資料貸出資料件数	31	件		

中期目標・計画番号	2-1	目標値番号	3	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1 期中期目標・計画項目
2 展示
(1) 総合展示室の運営

中期目標・計画	ア 最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るたびに建う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。		
イ 総合展示の展示資料について、道民及び関連機関に知らせるため、その全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。			
ウ 総合展示のメンテナンスに努める。			
総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。			
設定内容	目標値（5年間）		
総合展示室利用者数	362,000人		
うち外国人利用者数	19,000人		

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	○	×
	21	17	4	

平成30年度			項目別評価（平成30年度の実施状況）		平成31年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
- 総合展示の定期的な入替えを実施する。 - 総合展示室と特別展示室の相互利用を促進する展示手法を導入する。 - すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。 - 総合展示のメンテナンスに努める。 - 総合展示の防犯体制の見直しを進める。 - 子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。	総合展示の維持管理と資料の入替 24件 ・総合展示室の展示品の入替件数（クロスアアップ展示を除く）（40件）	- 総合展示内で定期的な資料入替を行っている「クロスアアップ展示」の展示替えを計画どおりに、全7か所で合計23回実施した。この展示替えにより、飽きない楽しめる展示を提供することに努め、目標値をこえる多くの利用者を得ることができた。また、展示ワークキングチームにおいて来年度のクロスアアップ展示計画を策定した。 「クロスアアップ展示」以外の、総合展示室第1～5チームの展示資料入替件数は32件である。その他、フロアログ展示で5件、職員紹介コーナー展示で3件の展示資料入替を実施した。この展示替えにより、最新の研究成果の紹介、新着資料・館蔵資料の公開を促進した。 - 総合展示室と特別展示室の相互利用をはかるため、企画テーマ展「総務省森林公園」および、子どもの夏休みの期間中に特別展示室をめぐめるスタンプラリーを実施した。また、「生命のけきし」展の期間中には、総合展示室内にも、同展に関連した「さわる化石資料」の展示、ワークキングを設置し、同展示室の相互利用を促進した。 - スマートフォンアプリ「ボウワット手芸館」を継続して運用し、利用しやすい展示空間の整備を進めた。また、展示の在り方や計画を検討する「展示ワークキングチーム」において、利便性の改善・向上に向けた検討を進めた。 - 展示ケース・設備等の設備を指定管理者とともに点検し、総合展示のメンテナンスを行った（計7回）。 - 総合展示室の定期的な巡回・点検を実施し防犯に努めるとともに、防犯カメラシステムを導入に向けた検討を進めた。また、昨年引き継ぎ特別展示室に防犯カメラシステムを設置し、警備室・事務室でモニタリングを実施した。 - 子ども向けサイズ・スタンプワークシートを配布した。また、「生命のけきし」展の期間中に「さわる化石資料」の展示コーナーを設置した。これらの展示企画をもとに、子ども向けの展示手法について検討を進めた。	・定期的クロスアアップ展示の展示替えおよび資料入替を実施し、目標値に達する利用者を得たことは評価できる。クロスアアップ展示件数については増加しているが、期間中にマイナーチェンジとして個々の展示入替を行ったことは評価できる。 ・総合展示室と特別展示室の相互連携をはかることに努め、総合展示室の利用者数目標値に達する利用者を得たことは評価できる。 ・障がい者、外国人の利便性改善・向上に向けた検討を進めたが、具体的な整備にはいっていない。 ・総合展示の設備等について定期的に点検を行ない、修繕に努めたことは評価できる。 ・総合展示の定期的な巡回・点検を実施し、防犯に努めたことは評価できる。 ・新たな試みとして総合展示室内に特別展示室で開催した「生命のけきし」展に関連した「さわる化石資料」の展示コーナーを設置し、子どもの興味をひく展示を展開したことは評価できる。 ・子ども向けハズルの導入などについて検討を進めたが、具体的な整備にはいっていない。	A	- 総合展示の定期的な入替えを実施する。 - 総合展示室と特別展示室の相互利用を促進する展示手法を導入する。 - すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。 - 総合展示のメンテナンスに努める。 - 総合展示の防犯体制の見直しを進める。 - 子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。	総合展示の維持管理と資料の入替 23件 ・クロスアアップ展示の件数（23件） ・総合展示室の展示品の入替件数（クロスアアップ展示を除く）（40件）

中期目標・計画番号	2-2	目標値番号	4	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目					プライオリティ				
2 展示					H27	H28	H29	H30	H31
(2) 企画展示の開催					◎	◎	◎	◎	◎

中期目標・計画					点検項目集計				
ア 他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。									
イ 道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。									
ウ 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。									
特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。									
特別展示室利用者数									
設定内容									
目標値(5年間)									
288,000人									

中期目標・計画					点検項目集計				
ア 他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。									
イ 道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。									
ウ 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。									
特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。									
特別展示室利用者数									
設定内容									
目標値(5年間)									
288,000人									

平成30年度		項目別評価(平成30年度の実施状況)		平成31年度	
年度計画	目標(値)	達成状況	自己評価	年度計画(案)	目標(値)(案)
北海道150年を記念した魅力的な企画展示を本庁、道内外の博物館、民間企業等と連携して開催する。 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。	総合博物館として様々な企画展を計画・実施	平成31年1月末時点で企画展示利用者の目標値を達成することはできず、多くの利用者を獲得することができた。満足度は平均84%であった。 展示を共同で企画し、展示を巡回した三重県総合博物館、北海道立布田美術館(松浦武四郎実業行委員会)及び、朝日新聞社、北海道新聞社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、NHK札幌放送局、一般財団法人北海道歴史文化財団と連携し、道内外博物館連携・企業連携による北海道150年を記念した大規模かつ魅力的な特別展「霧未維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」を開催した。 これまでの研究成果を反映した展示、道民参加型の企画展示として、第11回企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」を開催した。また、収蔵資料を積極的に公開する展示として、新着の一括資料をもとに第12回企画テーマ展「りんご農家の道具」を開催し、ともに1万人をこえる利用者を得ることができた。 外部連携展示は、国立科学博物館と連携して「生命のいきし」展を開催し、13,101人と多くの利用者を得ることができた。 道民参加型の企画展示は、休館ラウンジを利用して、北海道化石会と連携して「アンモナイト」展を継続して実施した。 展示計画を議論する「展示ワーキングチーム」会議では、次年度以降の企画展示の計画を策定した(今年度は1月末までで6回開催)。また、次年度の特別展開催に向けて「展示構成チーム」を組織し、会議を行ったほか、事前調査を進めた。	企画展示利用者の満足度は目標値(90%)には至らなかったが、平均84%という数字は、満足度の高い、魅力的な展示を提示できたことと考える。 特別展「霧未維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」は、道内外博物館連携・企業連携により展示資料の充実、広報の強化などをほかり、4万人をこえる利用者を得ることが評価できる。アンケートによくと来館者の満足度が高くなり、魅力的な展示を提示できたことも評価できる。 第11回・12回の企画テーマは、ともに利用者1万人をこえるなど、例年よりも多くの利用者を得たことが評価できる。第11回企画テーマ展については、野幌森林公園博物館の会の方とともに調査の会の方とともに展示を企画することにより、展示を達成できたことが評価できる。 国立科学博物館と連携して「生命のいきし」展は、利用者数が減少する冬季にもかかわらず、13,101人と多くの利用者を獲得することが評価できる。 北海道化石会と連携し野幌森林公園いきもの図鑑を定期的に6回開催して、本格的に運営を開始したことは評価できる。 展示ワーキングチーム会議を定期的に6回開催し検討を重ね、来年度以降の企画展示計画を策定したことは評価できる。	魅力的な企画展示を本庁、道内外の博物館、民間企業等と連携して開催する。 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。	総合博物館として様々な企画展を計画・実施 ・その他、館内外で実施する展示件数(2件)
特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。 特別展示室利用者数 平成30年度 80,000人	特別展示室利用者数 平成31年度 80,000人	年度計画実績(平成30年4月～平成31年1月) 特別展示室利用者数 79,723人 ※特別展示室利用者は、外部連携展示「生命のいきし」の利用者数(13,101人を含む) 目標(値)実績(平成30年4月～平成31年1月) 第4回特別展(6/30～8/26) 霧未維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 利用者数 44,477人 満足度 85.6% 第11回企画テーマ展(4/27～6/3) 野幌森林公園いきもの図鑑 利用者数 12,080人 満足度 86.2% 第12回企画テーマ展(9/21～11/25) りんご農家の道具 利用者数 10,085人 満足度 81.1% その他、館内外で実施した展示件数 3件	特別展示室の利用者数は、次のとおりとする。 特別展示室利用者数 平成30年度 80,000人	特別展示室の利用者数は、次のとおりとする。 特別展示室利用者数 平成31年度 80,000人	特別展示室の利用者数は、次のとおりとする。 特別展示室利用者数 平成31年度 80,000人

中期目標・計画番号	3-1	目標値番号	5	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1 期中期目標・計画項目					
3 調査研究					
(1) 調査研究の推進					
中期目標・計画		プライオリティ			
		H27	H28	H29	H30
		◎	◎	◎	◎
					H31
					◎

点検項目集計		計			
		15		○	×
				12	3

中期目標・計画
ア 北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会の提供につなげる。
イ 道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。
ウ 外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。
エ 北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、地理的・歴史的につながる地域、類似点のある地域の博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。
オ 館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

平成30年度		項目別評価（平成30年度の実施状況）		平成31年度		
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・新規立ち上げを含め、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト5課題、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト3課題を実施する。最終年度となる4課題について成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。	総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施	・今年度から立ち上げた2課題を含めて5課題の「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト、3課題の「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクトを、前年に引き続き実施している。このうち、今年度限りで予定の最終年度である4課題について、それぞれ成果のとりまとめを図るとともに、翌年度に向けた方針を議論し、新規課題立ち上げの準備を進めている。	・予定した各研究プロジェクトを遂行することと、年度内に終了した課題については適切な研究課題については適切な研究課題の数の増加について議論し、新規課題を選定し、立ち上げに向けた準備を進めることができた。	A	・新規立ち上げを含め、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト5課題、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト3課題を実施する。最終年度となる2課題について成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。	総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施
・調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した「調査研究ワーキングチーム」等において、調査研究への道民参加の具体的な仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について検討を進め、実現を図る。		・調査研究への道民参加としては、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」のうち一つについて、共同調査の延長で展示会を開催した（企画「野幌森林公園」いきもの図鑑）ほか、各プロジェクトの調査実施過程で地域住民の協力を求め、参加を得ている。	・サハリン州郷土博物館と共同調査を実施し、充実した共同調査をおこなった。ロイヤル・アルバータ博物館については予定を変更することになったが、相手方と協議し、放棄した調査ができる日程調整を進めることができている		・調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した「調査研究ワーキングチーム」等において、調査研究への道民参加の具体的な仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について検討を進め、実現を図る。	
・サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。		・道民の自主的な研究活動や研究発表の場として、ラウンジでの展示を実施中である。			・サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。	
・月1回の定例研究報告会を継続して実施。外部講師の招へいを検討し、実現を図る。		・サハリン州郷土博物館と館書を締結して実施している5年間の共同研究の一環として、同館から2名の研究者を招へいし、北海道内において昆虫・鳥類などに関する生物学的な共同調査を実施した。	・調査研究への道民参加については、研究課題によっては実証を見たと、相手方と協議し、放棄した調査ができる日程調整を進めることができている		・月1回の定例研究報告会を継続して実施する。外部講師の招へいを検討し、実現を図る。	
【判断数値設定】		無		【判断数値設定】		無

中期目標・計画番号	3-1	目標値番号	6	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1 期中期目標・計画項目					
3 調査研究					
(1) 調査研究の推進					
中期目標・計画		プライオリティ			
ア 北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会の提供につなげる。		H27	H28	H29	H30
イ 道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。		◎	◎	◎	◎
ウ 外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。					
エ 北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、類似点のある地域、博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。					
オ 館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。					

点検項目集計	計	15	○	12	X	3
--------	---	----	---	----	---	---

平成30年度		項目別評価（平成30年度の実施状況）		平成31年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）
・科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について議論を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。	科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得	・科学研究費補助金については、前年度からの継続7件に加え、新規5件、計12件を獲得し、研究を実施し、随時その成果を発表している。館として取り組むべき課題のあり方や、獲得数増に向けた方策について「調査研究ワーキングチーム」において議論を重ね、来年度については新規12件の申請をおこなった。	・科学研究費補助金については、前年度に継続的に申請するよう館内で働きかけをおこなったものの努力をし、申請数が29年度の10件から30年度の12件に増えた成果もあってか、新規採択数増（2→5件）を実現することができた。引き続き、館として取り組むべき研究課題のあり方や新規獲得に向けた方策について議論をし、昨年度比の申請を実現した。	A	・科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について議論を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。
・その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続を行う。		・科学研究費補助金以外の外部資金については、情報収集して学芸員への周知を図り、新規に3件の申請をおこない、うち1件の採用を得た（1件は平成31年1月末現在、結果が出ていない）。	・上記以外の外部資金を新規1件獲得した。		・その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続を行う。
	【判断数値設定】 無				【判断数値設定】 無

中期目標・計画番号	4	目標値番号	7	担当	総務部企画グループ
-----------	---	-------	---	----	-----------

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
	○	○	○	○	○

中期目標・計画 ア 北海道開拓の村に移築・復元されている歴史的建造物群を、北海道の貴重な財産として後世に伝える取組を進める。 イ 建造物内の展示の充実に取り組み。	
---	--

点検項目集計	計	○	×
	3	3	0

平成30年度			項目別評価（平成30年度の実施状況）		平成31年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
- 平成30年度北海道開拓の村施設整備計画による歴史的建造物の整備・修繕の実施。 - 建造物の内部展示の改修計画の策定。 - 北海道150年に向けた「北海道百年記念施設」のあり方検討。 - 平成31年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。 - 北海道開拓の村内部展示の改修・改訂について調査・検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画を策定する。 - 北海道150年に向けた「北海道百年記念施設のあり方」について検討する。		- 平成30年度北海道開拓の村施設整備計画どおり、地方創世財団整備交付金による「ハリーテューリングを担う人材育成拠点整備事業」として、旧岩塚家たみ倉、旧龍雲寺の補修工事を実施、完了した。 - 旧近藤染舗、旧小樽新聞社の老朽度調査を実施し、完了した。 - 道有建築物修繕の建設部集約化にともない、旧武井商店酒造部、旧三ツ河本そは屋の補修工事実施設計は建設部が実施し、歴史的技術及び文化財補修法などの協議を実施して進めた。 - 平成30年9月の台風21号で被害を受けた歴史的建造物8棟の改修工事、北海道胆振東部地震で被害を受けた歴史的建造物1棟の改修工事を進めている。 - 被災した国指定重要文化財旧開拓使工業局庁舎については、文化庁が定める手続「き損届」を提出し、来年度以降の改修工事実施に向けた準備を進めた。 - 平成31年度北海道開拓の村施設整備計画を策定した。 - 建造物の内部展示の改修・改訂に関する整備計画のため調査を行い、改修・改訂整備計画を策定の作業を進めた。 - 北海道百年記念施設のあり方については、本庁のガバナンス体制で検討が進められ、12月に「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」が策定された。 - 北海道大学恵迪寮同窓会に「開拓の村旧寮舎展示企画委員会」が設置され、旧札幌農学校寄信舎（恵迪寮）北寮の展示写真パネル12点を更新。北寮の展示改修の協力・検討を進めている。	- 歴史的建造物の改修工事を当初計画どおり完了した。台風・地震被害による改修工事も緊急度の高いものから実施中である。 - 開拓の村整備計画に従い歴史的建造物2棟の実設計に対する協議を行うとともに、2棟の老朽度調査を計画通り完了した。 - 建造物等の内部展示の改修・改訂調査、整備計画策定の作業を進めた。 - 北海道百年記念施設のあり方については、本庁のガバナンス体制で検討を進めた。	A	- 北海道開拓の村施設整備計画による歴史的建造物の整備・修繕と建造物内部展示工事の実施、整備・修繕計画策定。 - 北海道胆振東部地震で被害を受けた旧開拓使工業局庁舎などの歴史的建造物の改修工事を実施する。 - 歴史的技術及び文化財補修法等に関する協議を建設部と行う。 - 平成32年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。 - 北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂整備計画を策定する。 - 北海道大学恵迪寮同窓会による札幌農学校寄信舎（恵迪寮）北寮展示改修事業に協力する。	【判断数値設定】 無

中期目標・計画番号	5-1	目標値番号	8	担当	学芸部通民サービスグループ
-----------	-----	-------	---	----	---------------

第1期中期目標・計画項目				
5 教育普及事業				
(1) 魅力あるイベントの充実				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

点検項目集計		計		
		9	9	○
			○	×
				○

中期目標・計画
ア 総合展示室や「はっけん広場」で気軽に参加できるイベント、子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、来館者のニーズに対応した多彩で魅力のある行事を実施する。
イ 調査研究の成果を活用した、北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができる行事を実施する。
ロ グラムを実施する。
エ 「ミュージアムファミリー」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに対する理解を深めてもらうための行事を実施する。
オ イベントやプログラムの充実にあたっては、特にアイヌ文化や北海道の自然に関する事業を重点的に強化する。

設定内容	目標値（5年間）
イベント参加者数	16,000人

平成30年度		項目別評価（平成30年度の実施状況）		平成31年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室で鑑賞することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実	・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできたが、この数値には特別イベントや祝日の「ハンズオン」などの参加者数が多まれていることを考慮し、目標値を新たに設定することが必要である。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営、企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営、企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営、企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営、企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営、企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営、企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営、企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営、企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営、企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者数は好調であった。 ・学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。 ・「バックヤードツアー」以外にも、博物館活動に対して理解を深めていただく行事の実施について、検討していく必要がある。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営、企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化に向け、来年度事業の策定を行った。 ・新たな制度やサービスの導入により、利用者がより簡便、快適に行事に参加できる環境を整備することができた。 ・なお、展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化についてより深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教育を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。 ・展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。	子ども向けの魅力あるイベントの充実
		達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
		・総合展示室内での展示解説は、「ハイライツツアー」を毎日14時から通年実施した。「ハンズオン」イベントは、初日に12件（昨年度16件）実施し、子どもにも好評だった。「ミュージアムワーク」は、祝日に11回（昨年度8回）実施した。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事は、いずれも計画的に実施できた。特に子ども向けのちやれんが子どもクラブは、今年度は13件開催、参加者数は542人で、昨年度実績（11件390名）ならびに目標値を大幅に上回った。（今年度数値は1月末現在、以下全て同様） ・調査研究成果を活用した講座・講演会を、15回（昨年度16回）計画的に実施した。 ・「グループレクチャー」は、122件実施、7,307人の参加で、件数は昨年度実績（137件）ならびに目標値を下回ったが、参加者数は昨年度実績（7,097人）ならびに目標値を上回った。 ・「はっけんプログラム」は、220件実施、参加者数は7,051人で、件数は昨年度実績（111件）ならびに目標値を大幅に上回り、参加者数は昨年度実績（6,754人）を上回り、目標値に近づいている。 ・学校教育対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施し、学校団体にあってより充実した博物館利用のあり方について検討した。 ・7月に地域連携事業として「北海道ジオパークまつり」、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した（2月は予定）。 ・平成27年度以降4年間の調査票及事業で得られた利用者の意見や企画・運営の反省点を精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。 ・利用者の意見から、行事申込の簡便化を図り「行事申込登録者制度」を導入した。また、会費で係掛りの負担も開始した。 ・来館者からの随時の質問には対応しているが、総合的な展示解説としたい来館者からの随時の要望には、依然対応できていない。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・イベント参加者数の目標値は、大幅に上回ることでできた。 ・子ども向け事業、ならびに子どもから大人向けの講座・講演会などへの参加者		

中期目標・計画番号	6	目標値番号	11	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	---	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目					
6 ミュージアムエデュケーター機能の強化					

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
○	○	○	○	○	○

点検項目集計		計	○	○	×
		4	3		1

中期目標・計画
ア 一般来館者や学校団体がより効果的に学び、気づき、発見できる環境を整えるため、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
イ 道内の博物館、教育委員会、学校、各種団体などと連携し、より効果的な北海道博物館の利用促進のための取組を進める。

平成30年度		項目別評価（平成30年度の実施状況）			平成31年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。 ・館外での研修で得た知識および技能を館内で共有する仕組みづくりを進める。 ・より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。	ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取り組み 【判断数値設定】 有 ・博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数（4件7人） ・当館が実施する教員対象の研修会への参加人数（40人）	・博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図るための館内外での研修会等への参加については、平成30年度道央地区博物館等連絡協議会第1回研修会（5月、札幌市、道央地区博物館等連絡協議会主催）に3名、第8回ミュージアム・エデュケーター研修（9月、東京駅、文化庁主催）に1名、平成30年度アイヌ文化財専門職員等研修会（11月、札幌市、北海道教育庁主催）に4名が参加した。 また、本年度は文部科学省委託事業「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」により、道内各地で博物館の教育普及活動の技能向上に役立つ研修会が開催され、それぞれに1～数名ずつ参加した。 これらの研修会への参加を通じて、それぞれがミュージアムエデュケーターとしてのスキルを向上させ、普及行事・イベントなどの普及教育活動、企画展の企画などを一層充実させることができた。 ・研修で得た知識等を共有する仕組みづくりについては、検討を進めており、一部は年度内に実施できる予定である。 ・教員などを対象とした研修会や意見交換会については、①「北海道博物館・北海道開拓の村 博物館教育プログラム研修会」を実施、昨年度までの経験を元にプログラムを改善し、145名の参加があった。 ②「教員のための博物館の日」に参加・出展し、30名の参加者に対して当館の利用に関してワークショップ等を実施し、団体利用促進を図った。 ③昨年度に続き「平成30年度初任段階教員研修（道教委計画研修・3年次研修）」について5校5名を受け入れ、北海道博物館の施設についてのガイダンス、学校による博物館利用に関しての意見交換、外部連携事業である「かるちゃんnet」補助業務などを実施した。	・教育普及活動に必要な専門的知識及び技能の向上を図る研修会への参加については、本年度は研修の数・内容ともに例年になく充実していた。研修参加の成果は知識・技能の向上という形で博物館活動に活かした。 ・研修で得た知識等を共有する仕組みづくりについては、検討が進んだ。 ・教員を対象にした研修会を、充実したプログラムで開催し、博物館活動を体験してもらったことで、今後の博物館と学校の相互理解（連携）につながられた。 ・昨年度から受け入れをはじめた「初任段階教員研修」については、教員の博物館への理解を促進し、利用の促進につながることが大いに期待できる。この先もこの枠組みが定着し、続けられることが望ましい。 研修会などへの参加を通じて博物館の教育普及活動に必要な職員の専門的知識及び技能の向上、教員などを対象とした研修会のいずれも参加人数・内容とも充実化できたため、A評価とする。	A	・館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。 ・館外での研修で得た知識および技能を館内で共有する仕組みづくりを進める。 ・より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。	ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取り組み 【判断数値設定】 有 ・博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数（4件7人） ・当館が実施する教員対象の研修会への参加人数（40人）

目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月）		
博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数	11 件	38 人
当館が実施する教員対象の研修会への参加人数		145 人

目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月）		
博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数	11 件	38 人
当館が実施する教員対象の研修会への参加人数		145 人

中期目標・計画番号		8-1		目標値番号		12		総務部総括グループ		担当			
第1期中期目標・計画項目													
8 施設及び周辺環境の整備													
(1) 館内施設の整備と活用													
中期目標・計画													
ア 休憩スペース、キッズ・コーナー、ミュージアムショップ、カフェなど、アメニティ設備を充実させるとともに、オリジナルグッズの提案・開発により、博物館としての魅力アップにつなげる。													
イ 記念ホール、講堂、グラントホールなどの一層の活用を図る。													
平成30年度				項目別評価（平成30年度の実施状況）				平成31年度					
年度計画		目標（値）		達成状況		自己評価		評価基準		年度計画（案）			
・アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。		・アメニティ施設の設置 ・オリジナルグッズの販売 ・施設の活用に向けた基準の策定		○ 車いす1台の寄贈を受けたが、その他アメニティ施設の充実に向けた検討は進んでいない。 ○ オリジナルグッズの開発、販売 ・独自開発数 0種 ・総販売品目数 330種 ・今年度の追加品目 34種 ○ 施設の活用 【記念ホールの活用】 ・第4回特別展第2会場（子ども向け体験展示）（H30.6.30～8.26） ・ミュージアムコンサート アイス音楽ライブ（H30.11.3） ・視察受入（海外、道議会等）の会場として活用 【講堂の活用】 ・野幌森林公園火災予防対策会議・管理運営協議会（H30.4.27） ・教員のための博物館の日（H30.6.26～6.27） ・第4回特別展開会式会場（H30.6.30） ・職業体験実習（H30.10.17） ・北のみゆげふえず（H30.10.28） ・北海道化石フェスト2019（H31.1.13） ・シンポジウム「地域の情報拠点としての博物館」（H31.1.18） 【グラントホールの活用】 ・全国知事会 政策四重奏（H30.7.25） ・北海道博物館におけるアイヌの人々の遺骨にかかわる監行事（H30.11.19）		・キッズ・コーナー等のアメニティの一層の充実に向け、検討が必要。 ・オリジナルグッズの独自販売はなかったが、特別展図録等のほか、特別展テーマの絵本などを追加・販売するなど総販売品目数が増加し、類似施設との差別化を図ることによって、来館に向けた動機を高めることができた。 ・施設の活用について、当館主催の式典やイベントなどのほか、他団体主催のイベントへの貸出や海外や議会議員等の視察受入時の会場とするなど、会議以外の利活用が図られた。 ・「博物館施設活用基準（仮称）」については、火災報知設備の改修が終了し利用者の安全確保面での課題は解決されたことから、活用ニーズや他館の事例調査、事業優先度の課題把握など、策定に向けた調査・検討を引き続き進める。		B		・アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。 ・オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。 ・記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準（仮称）」等の検討・策定を行う。		目標（値）（案） ・アメニティ施設の設置 ・オリジナルグッズの販売 ・施設の活用に向けた基準の策定	
点検項目集計				計		8		○		×			
										無			

中期目標・計画番号		8-2		目標値番号		13		担当		総務部総括グループ	
-----------	--	-----	--	-------	--	----	--	----	--	-----------	--

第Ⅰ期中期目標・計画項目											
8 施設及び周辺環境の整備											
(2) 周辺環境の整備											

中期目標・計画											
ア 公共交通機関でのアクセス、野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上に向けた取組を進める。											
イ 野幌森林公園の景観やイメージとの調和に配慮し、トータルデザインに基づいて公園や園内各施設のサインの統一化を図る。											
ウ 野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた取組を進める。											

平成30年度				項目別評価（平成30年度の実施状況）				平成31年度			
年度計画		目標（値）		達成状況		自己評価		評価基準		年度計画（案）	
・サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）と野幌森林公園管理運営協議会等の場で検討を進める。		サインの仕様や設置費の確保、設置箇所等の検討、土地所有者への協力依頼		・サインの統一化 公園入口等に日英表記による開館・閉館案内の看板のほか、インバウンド整備事業により北海道開拓の村内に多言語表記による案内看板を設置したが、公園内各施設のサインの統一化については、設置費用の問題等もあることから検討は進んでいない。		・開拓の村における多言語案内看板の整備等により、外国人観光客の受入体制を強化することができた。 ・公園内のサインの統一化については、設置費の予算確保が最大の課題となっているが、今後、文化振興課が決定した、ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想における「多言語による案内看板の整備などユニバーサルデザイン」の具体的検討の場における議論をはじめ、土地所有者との具体的な打ち合せなどの検討も必要。		B		・サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）と野幌森林公園管理運営協議会等の場で検討を進める。 ・屋上スカイビューは、4月29日から9月23日までの祝日開館日の10:00～16:00に開放する。	
		【判断数値設定】		無						【判断数値設定】	
										無	

点検項目集計		計		○		×	
		4		3		1	

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
○					

中期目標・計画番号		8-3		目標値番号		14		担当		総務部総括グループ	
-----------	--	-----	--	-------	--	----	--	----	--	-----------	--

第1期中期目標・計画項目											
8 施設及び周辺環境の整備											
(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進											

中期目標・計画											
北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努め、利用者の利便性と満足度の向上を図る。											

平成30年度		項目別評価（平成30年度の実施状況）				平成31年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）	
・ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。	野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	【一体的広報等の実施】 ○北海道博物館ホームページを多言語化し、北海道博物館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の各ホームページにリンクを設定。 ○指定管理者と連携し、北海道みんなの日（7月17日）に北海道博物館及び開拓の村の無料開放を実施。 ・北海道博物館（総合展示） 615人 ・北海道開拓の村 1,006人 ○かるちゃんnet（文化施設連絡協議会）[構成：北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館ほか、野幌森林公園近隣の全10の文化施設]において、スタンブラリーや体験イベントの開催、情報通信誌の発行。 ・スタンブラリー（H30.7.14～8.19） ・遊ぼう！学ぼう！あつぽつ・えぽつ（H30.10.7） ・施設紹介パネル展（H31.1.5～1.6） ・情報通信誌 4回発行 ○博物館と自然ふれあい交流館との連携事業（自然観察会）の実施（計5回 4/14、5/19、8/18、10/20、2/23）。 ○施設間の交通アクセスの向上のため博物館と開拓の村間の無料シャトルバスを運行（5/3～6、9/15～17）。 ○利用者満足度調査の実施（H30.11.28～H31.1.23） ○台風21号による森林公園内の風倒木被害について、関係機関と連携しながら迅速に処理を進め、公園内遊歩道の早期開放に努めた。（10/3立入禁止解除） 【連絡会議の実施】 ・各施設の管理運営に関する連絡体制の強化と利用者サービスの向上を図るため、北海道博物館と指定管理者による北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議を原則毎月1回開催。 ・野幌森林公園の関係機関相互の情報交換及び連絡調整、自然公園における保護と利用の促進に必要な施策実施のため「野幌森林公園管理運営協議会」を設置 《構成機関》北海道博物館、指定管理者、国、道の関係機関、市 《会議開催日》平成30年4月27日 《内容》平成29年度事業報告、平成30年度事業計画	・指定管理者との定期的な連絡会議の開催により、施設管理上の問題点の把握や対応方針の協議・検討のほか、企画展や教育普及事業など各種事業について円滑な実施が可能となっている。 ・指定管理者をはじめ関係機関と連携・協力し、施設の無料開放や関係者が一体となったイベントの実施を行うことにより、一定程度、利用者の利便性と満足度の向上につながった。 ・台風による倒木の処理について、本庁と連携し必要な予算の確保に努めたほか、関係機関と連携しながら処理を行い、公園利用者の利便性の確保を図った。 ・利用者満足度調査において、各施設のPR不足をはじめ様々な意見を受けているため、引き続き、利便性・満足度向上のため連携した取組が必要。	A	・ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。	目標（値）（案） ・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	
		【判断数値設定】 ・連絡会議の実施件数（12件） ・一体的に行う広報の件数（10件）				【判断数値設定】 ・連絡会議の実施件数（12件） ・一体的に行う広報の件数（10件）	
点検項目集計		計	2	○	2	×	
						0	

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
○					

中期目標・計画番号	9-2	目標値番号	16	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	----	----	---------------

第1期中期目標・計画項目					
9 広報					
(2) 赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携					
		プライオリティ			
		H27	H28	H29	H30
		◎	◎	◎	◎
				H31	
				◎	◎

		点検項目集計		計	○	×
				4	4	0

中期目標・計画
 ア 赤れんが庁舎（北海道庁日本庁舎）を北海道博物館のサテライト空間として活用し、来訪者を北海道博物館に誘導する展示を実現するとともに、情報発信機能の強化に努める。
 イ 他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

平成30年度		項目別評価（平成30年度の実施状況）		平成31年度					
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）				
・定期的な提供する情報の更新、利用者と直に接する広報活動を展開などをきめ、「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動を展開する。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への来客へとつながっているか、定量的に把握するとともに、今後の赤れんが庁舎活用策についての検討を行う。 ・「サイエンスパーク」や「かるちゃんnet」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。	「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動	・平成29年3月に全面改定した「北海道博物館赤れんがサテライト」において、今年度も継続して北海道博物館の紹介と、地域情報の発信を行った。 ・イベント紹介コーナーの更新を行い、特別展や企画テーマ展など、北海道博物館に関するタイムリーな情報の提供に努めた。更新回数は1月末現在8回で、昨日目標を上回った。 ・昨年度より継続して、道内各博物館のパンフレット閲覧冊子を地域ごとに配置し、道内博物館に関する情報発信を行った。 ・昨年度より継続して、多言語に対応したスマートフォンによる展示解説サービスを提供し、北海道博物館の多言語解説サービスが充実していることを訪日外国人にPRした。 ・昨年度より継続して、北海道博物館の著作物閲覧コーナーにおいて、特別展図録、研究紀要、ニュースレターなどの新刊を速やかに補充し、北海道博物館の活動をPRした。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」において、利用者と直に接する本格的な広報活動は、「カルチャータイト」など、1月末現在1回にとまり、目標値を下回っている。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への来客へとつながっているかを把握するため、赤れんがサテライトに配置している北海道博物館・北海道開拓の村割引券の使用率などのデータを収集している。 ・他機関との連携による利用者と直に接する広報活動については、「サイエンスパーク」や「かるちゃんnet」など他機関との連携事業に積極的に参画した。	・今年度の目標は概ね達成することができた。 ・提供する情報の更新を、計画的かつ効果的に、計画より効果的に行なうことができた。 ・昨年度導入した新たな広報施策を今年度も維持できた。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」において、利用者と直に接する広報活動の計画が限定できなかった。 ・他機関との連携事業に積極的に参画し、北海道博物館の効果的なPRを行うことができた。 ・本来であれば、サテライト空間を利用し、より積極的かつ多様な広報活動が展開できることが望まれるが、実現には至っていない現状がある。	・イベント紹介コーナーの計画的な更新、利用者と直に接する広報活動の展開などをきめ、「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動を展開する（平成31年度は10月1日より改修工事で閉館となるため、9月30日まで）。 ・10月～12月の間に、「北海道博物館赤れんがサテライト」の資料や物品を撤収する。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への来客へとつながってきたのか、総括する。 ・「サイエンスパーク」や「かるちゃんnet」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。	「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動				
		目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月） <table><tr><td>「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数</td><td>8件</td></tr><tr><td>「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数</td><td>1件</td></tr></table>		「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数	8件	「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数	1件		
「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数	8件								
「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数	1件								
		【判断数値設定】有 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数（5回） ・「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数（5回）		【判断数値設定】有 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数（5回） ・「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数（10回）					

中期目標・計画番号	10	目標値番号	17	担当	総務部企画グループ
-----------	----	-------	----	----	-----------

第1期中期目標・計画項目
10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	○	×
	5	5		0

中観目標・計画

ア 毎年度の事業実績について、あらかじめ評価項目を定め、館としての自己点検評価を行い、その結果を公表し、改善すべき点については、速やかに対処する。

イ オーディエンス・リサーチ（利用者調査）を実施し、その結果を分析し、公表するとともに、改善すべき点については、速やかに対処する。

ウ 自己点検評価と利用者調査をふまえて、博物館協議会による外部評価を行い、その結果を公表することを通じて、より良い博物館づくりへとつなげる。

利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成31年度
利用者満足度	70%

平成30年度		平成30年度の実施状況		平成31年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
・北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）などの実施と運営を行う。 ・内部評価の実施と運営を行う。 ・アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチの実施とその方法の検討を行う。 ・第2期中期目標・計画（平成32～36年度）を検討する。	・北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）の運営と実施。 ・内部評価の計画的実施。 ・オーディエンス・リサーチの実施とその検討。 ・第2期中期目標・計画（平成32～36年度）の検討。	・平成30年度第1回北海道立総合博物館協議会を5月8日に開催し、7月10日に同アイヌ民族文化研究センター専門部会を開催した。平成31年3月27日に第2回博物館協議会の開催を予定。 ・平成30年度の内部評価は、平成30年4月～平成31年1月までの事業実績をとりまとめ、平成31年2月28日に内部評価委員会を開催予定である。 ・総合展示・企画展示の満足度については、次のとおりアンケート調査を実施した。「たいへん満足」、「満足」の回答は平均で91.4％（総合展示平均、95.6％、企画展・巡回展平均88.5％）となり、高い評価を得た。 ①第11回企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」 ○満足度：86.2％（回答数2244件中、193件） ○総合展示満足度：97.9％（回答数1464件中、143件） ②第4回特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」 ○特別展満足度：85.6％（回答数588件中、501件） ○総合展示満足度：96.8％（回答数3144件中、304件） ③第12回企画テーマ展「りんご農家の道員」 ○満足度：81.1％（回答数1644件中、133件） ○総合展示満足度：92.6％（回答数956件中、88件） ④アイヌ文化巡回展（上川町） ○満足度：94.1％（回答数1522件中、143件） ⑤アイヌ文化巡回展（樟井町） ○満足度：100％（回答数7件中、7件） ⑥国立科学博物館・巡回ミュージアム「生命のれきしー君につなげるものがたりー」 ○満足度：84.2％（回答数2222件中、187件） ○総合展示満足度：95.1％（回答数2222件中、116件） ・前年度まで博物館実習のカリキュラムとして実施していたオーディエンス・リサーチ（来館者からの聞き取り調査）は、カリキュラムの変更によりもない、実施しなかった。 ・第2期中期目標・計画案の具体的な検討を進めるまでには至らなかった。	・北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）の運営と実施。 ・内部評価及び外部評価の計画的実施。 ・オーディエンス・リサーチの実施とその検討。 ・第2期中期目標・計画策定に合わせ、評価制度の見直し検討を行う。	・北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）などの実施と運営を行う。 ・第1期中期目標・計画期の外部評価及び平成31年度内部評価を実施する。 ・アンケート調査によるオーディエンス・リサーチを実施することともに、その他の方法によるリサーチ実施のための検討をすすめる。 ・第2期中期目標・計画策定に合わせ、評価制度の見直し検討を行う。	・北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）の運営と実施。 ・内部評価及び外部評価の計画的実施。 ・オーディエンス・リサーチの実施とその検討。
	無		無		無
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無		無	
無		無			

中期目標・計画番号	11	目標値番号	19	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	----	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目	プライオリティ				
1.1 博物館ネットワーク	H27	H28	H29	H30	H31
(1) 各種博物館団体との連携					
(2) 博物館交流の促進	○	○	○	○	○

中期目標・計画	点検項目集計				
(1) 各種博物館団体との連携	計				
(2) 博物館交流の促進	9				
	○				
	7				
	×				
	2				

中期目標・計画

(1) 各種博物館団体との連携

ア 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、道内の加盟館へと広げる一方、北海道からの要望をとりまとめるなど、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。

イ 北海道博物館協会との連携により、地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援するなど、中核的博物館としての役割を果たし、北海道の博物館活動の活性化につなげる。

(2) 博物館交流の促進

ア 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進させ、北海道再発見のための知のネットワークづくりへとつなげる。

イ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象に、博物館学系の知識や技術を普及する研修会を実施する。

ウ 地域の博物館や学校などのニーズに応じ、一般、学生、教員などを対象にした出前講座を実施する。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。

道内市町村等との連携・協力件数	5年間
	200件

平成30年度		項目別評価（平成30年度の実施状況）		平成31年度		
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
(1) 各種博物館団体との連携 ・日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。 ・北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。 (2) 博物館交流の促進 ・地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。 ・北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。 ・連携、協力に關して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。	質の高い連携による、企業や民間団体、図書館、自治体等との連携・協力事業の実施	(1) 各種博物館団体との連携 ・日本博物館協会、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たした。 ・北海道博物館協会（道博協）の事務局を担い、大会、研修会等との開催、『道博協ニュース』の刊行、道内地域ブロック別や館種別の組織の活動支援など、中核的博物館としての役割を果たした。 ・台風21号・胆振東部地震を受けて道博協加盟館の被災状況調査を実施し、道博協ホームページにて公開・随時更新した。 (2) 博物館交流の促進 ・博物館等との交流・連携・協力については合計で35件だった。 【道内外の博物館施設との連携・協力】 ・胆振東部地震で被災した博物館施設について、迅速な支援を行った。 ・国立科学博物館等と連携し「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」に参画、道内各地で博物館職員を対象とした博物館学系の研修会等を多数開催した。 ・兵庫県立人と自然の博物館ほかと連携し、「自然史レガシー継承・発信実行委員会」に参画、札幌でシンポジウム等を実施した。 ・CISEネットワークなど他機関主宰のネットワークに参画した。 【市民・他団体・企業等との連携・協力】 ・北のミュージアム活性化実行委員会と連携したイベントの共催、サイエンスパーク、ジオ・フェスティバルなど他組織主催イベントへの参加・出張などを実施した。 ・学会等との連携・協力（北海道民族学会の研究会を当館で開催）、高校への協力（札幌啓成高等学校のSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）活動、立命館慶祥高校のSGH活動など）を行った。 ・地域のニーズの把握については、「博物館教育プログラム研修会」を通じて実施した。	(1) ・道博協大会・研修会の開催ほか、事務局業務を通じて中核的博物館としての役割を十分に果たした。 (2) ・外部組織との交流・連携・協力については、昨年度実績（34件）を上回る件数となった。 ・本年度は特に科学博物館・人博それぞれのレガシー事業に参画するなど、道内外の多くの博物館と多様な形態の交流・連携・協力を実施でき、交流の質も高いものとなった。 ・博物館学系の研修会については、本年度はレガシー事業により実施できたが、知目録について引き継ぎ検討および予算措置が必要。 ・地域ニーズの把握は、学校については一定程度実施できた。	A	(1) 各種博物館団体との連携 ・日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。 ・全国歴史民俗系博物館協議会の2018～2019年度代表幹事館として、北海道博物館を会場に開催予定の年次集会を、同協議会事務局と連携して実施する。 ・北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。 (2) 博物館交流の促進 ・地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。 ・北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。	質の高い連携による、企業や民間団体、図書館、自治体等との連携・協力事業の実施
	道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。		【判断数値設定】 無		【判断数値設定】 無	
道内市町村等との連携・協力件数	40件	道内市町村等との連携・協力件数	35件	道内市町村等との連携・協力件数	40件	道内市町村等との連携・協力件数

中期目標・計画番号	12-2～3	目標値番号	20	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	--------	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目					
12 情報発信					
(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化					
(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援					

中期目標・計画					
(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化					
(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援					

中期目標・計画					
(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化					
(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援					

中期目標・計画					
第1期中期目標・計画項目					
12 情報発信					
(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化					
(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援					

中期目標・計画番号	13-1～3	目標値番号	21	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	--------	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目					
13 人材育成機能の強化					
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ					
(2) 外来研究員の受入					
(3) 派遣研修					

プライオリティ					
	H27	H28	H29	H30	H31
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ					
(2) 外来研究員の受入					
(3) 派遣研修					

中期目標・計画	点検項目集計			
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ	計	○	×	
	6	5		1

中期目標・計画
 (1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ
 ア 博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れるとともに、大学などと連携し、より効果的な実習（研修）プログラムを構築する。
 イ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などと連携し、授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。
 (2) 外来研究員の受入
 外部研究者や大学院生などを受け入れ、当館資料を活用した北海道の自然・歴史・文化に関する研究の機会を提供する。
 (3) 派遣研修
 外部機関が開催する博物館学系研修会や技術研修会に当館職員を参加させ、先端の知識と技術を蓄積する。

平成30年度	項目別評価（平成30年度の実施状況）	平成31年度																																																						
年度計画	達成状況	年度計画（案）																																																						
【判断数値設定】有 ・博物館学芸員の後継者及び博物館のコアユーザー育成（4件） ・インターンシップの受入件数（6件） ・博物館学系研修会や技術研修会への参加件数（4件）	【判断数値設定】有 ・博物館実習の受入件数（4件） ・インターンシップの受入件数（6件） ・博物館学系研修会や技術研修会への参加件数（4件）	【判断数値設定】有 ・博物館実習の受入件数（4件） ・インターンシップの受入件数（6件） ・博物館学系研修会や技術研修会への参加件数（4件）																																																						
（1）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ ・博物館実習（館務実習）を夏季に1回実施する。 ・博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。 ・教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。 （2）外来研究員の受入 ・引き続き外部研究者や大学院生などの外来研究員等としての受入に関する規定種の整備などの検討や他館の状況調査などを行い、制度の枠組みの立案を図る。 ・外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会等に当館職員を参加させる。	（1）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ ・博物館実習（館務実習）については、充実したプログラムで行うことができ、博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成に貢献できた。 ・博物館実習（見学実習）およびインターンシップについては積極的に受け入れ、人材育成に貢献できた。 ・教員を対象とした研修については、博物館活動を体験してもらうことで、今後の博物館と学校の相互理解（連携）に貢献できた。 （2）外来研究員の受入 ・特に今年度は検討事項の進展は出来なかった。 ・引き続き検討中の状況である。 （3）派遣研修 ・北海道博物館協会主催のミュージアム・マネージメント研修や文化庁が主催するミュージアム・エデュケーション研修、「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」による研修などに職員を参加させた。 目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月） <table> <tr> <td>博物館実習の受入件数</td><td>総数</td><td>10件</td></tr> <tr> <td>内訳</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>館務実習</td><td>292人</td><td>10人</td></tr> <tr> <td>見学実習</td><td>15人</td><td>1人</td></tr> <tr> <td></td><td>9人</td><td>15人</td></tr> <tr> <td>インターンシップの受入件数</td><td>277人</td><td>9人</td></tr> <tr> <td></td><td>47人</td><td>7人</td></tr> <tr> <td>博物館学系研修会や技術研修会への参加件数</td><td>11人</td><td>47人</td></tr> <tr> <td></td><td>38人</td><td>11人</td></tr> </table>	博物館実習の受入件数	総数	10件	内訳			館務実習	292人	10人	見学実習	15人	1人		9人	15人	インターンシップの受入件数	277人	9人		47人	7人	博物館学系研修会や技術研修会への参加件数	11人	47人		38人	11人	（1）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ ・博物館実習（館務実習）については、8月21日～8月31日（実習10日間）の日程で実施した。定員20名のところ最終的に15名（北海道大学、札幌学院大学、札幌大学ほか）の受講があった。体験学習素材準備、野外観察プログラム制作、展示実習等、博物館の活動のほぼ全体にわたって体験できるカリキュラムとすることができた。 ・博物館実習（見学実習）については、10件（北海道大学・同大学院、北海道武蔵女子短期大学、北翔大学ほか、計283名）を受け入れた。 ・インターンシップについては、7件（札幌市立平岸高校、同旭丘高校、登別明日中等教育学校ほか、計47人）を受け入れ、博物館の活動および学芸員の仕事のうち、普及イベントの準備などを体験してもらった。 ・教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、職員を大学の非常勤講師や講演の講師として派遣した。 （2）外来研究員の受入 ・昨年度から、引き続き検討中の状況である。 （3）派遣研修 ・北海道博物館協会主催のミュージアム・マネージメント研修や文化庁が主催するミュージアム・エデュケーション研修、「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」による研修などに職員を参加させた。 目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月） <table> <tr> <td>博物館実習の受入件数</td><td>総数</td><td>10件</td></tr> <tr> <td>内訳</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>館務実習</td><td>292人</td><td>10人</td></tr> <tr> <td>見学実習</td><td>15人</td><td>1人</td></tr> <tr> <td></td><td>9人</td><td>15人</td></tr> <tr> <td>インターンシップの受入件数</td><td>277人</td><td>9人</td></tr> <tr> <td></td><td>47人</td><td>7人</td></tr> <tr> <td>博物館学系研修会や技術研修会への参加件数</td><td>11人</td><td>47人</td></tr> <tr> <td></td><td>38人</td><td>11人</td></tr> </table>	博物館実習の受入件数	総数	10件	内訳			館務実習	292人	10人	見学実習	15人	1人		9人	15人	インターンシップの受入件数	277人	9人		47人	7人	博物館学系研修会や技術研修会への参加件数	11人	47人		38人	11人
博物館実習の受入件数	総数	10件																																																						
内訳																																																								
館務実習	292人	10人																																																						
見学実習	15人	1人																																																						
	9人	15人																																																						
インターンシップの受入件数	277人	9人																																																						
	47人	7人																																																						
博物館学系研修会や技術研修会への参加件数	11人	47人																																																						
	38人	11人																																																						
博物館実習の受入件数	総数	10件																																																						
内訳																																																								
館務実習	292人	10人																																																						
見学実習	15人	1人																																																						
	9人	15人																																																						
インターンシップの受入件数	277人	9人																																																						
	47人	7人																																																						
博物館学系研修会や技術研修会への参加件数	11人	47人																																																						
	38人	11人																																																						

中期目標・計画番号	14-1～4	目標値番号	22	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	--------	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目				
14 研究成果の発信と社会貢献				
(1) 学術刊行物などの刊行 (2) 学会への発信 (3) 職員の対外貢献 (4) 外部機関との事業連携				
		プライオリティ		
(1)～(4)		H27	H28	H29
				H30
				H31

点検項目集計	計	9	0	0
--------	---	---	---	---

中期目標・計画

(1) 学術刊行物などの刊行

ア 研究成果を広く伝えるため、研究紀要や研究報告書などを刊行する。

イ 北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究成果をわかりやすくまとめた冊子などを刊行する。

ウ 企画展示の開催に合わせて、来館者の理解を深め、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説用冊子を刊行する。

(2) 学会への発信

各種学会での発表や学術雑誌への投稿などにより、北海道博物館の研究成果を積極的に発信する。

(3) 職員の対外貢献

講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力し、社会貢献に努める。

(4) 外部機関との事業連携

民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。

社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

設定内容			5年間
新聞・報道対応の件数	招待講演の件数	各種委員・共同研究員等委嘱の件数	計900件
学会発表の件数	学術雑誌等への寄稿の件数	その他の件数	

平成30年度		平成30年度の実施状況		平成31年度		
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
(1) 学術刊行物等の刊行 ・『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号を刊行する。 ・研究紀要第4号をウェブサイト上で公開するとともに、旧開拓記念館の学術刊行物等についても、必要に応じて著作権等の処理を進め、可能なものから順次公開を進める。 ・特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。 ・企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。 (2) 学会への発信 ・学芸職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループないし北海道博物館としての研究成果のあり方や方法について検討を進める。 (3) 職員の対外貢献 ・各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。 (4) 外部機関との事業連携 ・引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。	研究成果の多様な発信	(1) 学術刊行物等の刊行 ・『北海道博物館研究紀要』『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の第4号の年度内の刊行に向けて準備を進めている。3号に引き続き外部査読を実施済み。 ・今年度より紀要はミュージアムショップでの販売が行えなくなったが、紙媒体にも一定以上の需要があるため、北海道行政報センターにおいて有償頒布を、既刊も含めて開始した。 ・旧開拓記念館の学術刊行物等のウェブサイト上で公開した。 ・紀要第3号をウェブサイト上で公開した。 ・特別展の開催に合わせて展示図録を刊行した(平成30年7月)。 ・企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行した(平成30年4月・9月、及び平成31年2月予定)。 (2) 学会への発信 ・研究成果の館外への公開・発信については、学会等での発表が33件、学術雑誌等への執筆が28件、ほか担当の研究紀要への投稿20件と、1月末の段階で計81件となる見通しである。 (3) 職員の対外貢献 ・招待講演(72件)、委員等委嘱(28件)、その他専門的知見の提供(20件)など、様々な形態で積極的な対外貢献を行った。 (4) 外部機関との事業連携 ・研究グループないし北海道博物館としての研究成果発信のあり方等については検討を進めた。 ・特別展「松浦武四郎」の開催に際し、民間企業を含む多くの外部機関・組織との連携・協力を行った。 ・そのほか、多くの外部機関との連携・協働を実施した。 年度計画実績(平成30年4月～平成31年1月)	(1) 学術刊行物等の刊行 ・『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第5号を刊行する。 ・研究紀要のウェブサイト上での公開を進めるとともに、旧開拓記念館の学術刊行物等についても適宜、著作権等の処理を進め、可能なものから順次、電子媒体での公開を進める。 ・特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。 ・企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。 (2) 学会への発信 ・学芸職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループないし北海道博物館としての研究成果のあり方や方法について継続的に検討を進める。 (3) 職員の対外貢献 ・各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。 (4) 外部機関との事業連携 ・引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。	A	・研究成果の多様な発信	
	社会貢献の目標値は、次のとおりとする。	設定内容 新聞・報道対応の件数 学会発表の件数 学術雑誌等への寄稿の件数 招待講演の件数 各種委員・共同研究員等委嘱の件数 その他の件数 計180件	内訳 新聞・報道対応の件数 学会発表の件数 学術雑誌等への寄稿の件数 招待講演の件数 各種委員・共同研究員等委嘱の件数 その他の件数 合計 296件 115件 33件 28件 72件 28件 20件	(1) 学術刊行物等の刊行 ・『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第5号を刊行する。 ・研究紀要のウェブサイト上での公開を進めるとともに、旧開拓記念館の学術刊行物等についても適宜、著作権等の処理を進め、可能なものから順次、電子媒体での公開を進める。 ・特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。 ・企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。 (2) 学会への発信 ・学芸職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループないし北海道博物館としての研究成果のあり方や方法について継続的に検討を進める。 (3) 職員の対外貢献 ・各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。 (4) 外部機関との事業連携 ・引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。	社会貢献の目標値は、次のとおりとする。	新聞・報道対応の件数 学会発表の件数 学術雑誌等への寄稿の件数 招待講演の件数 各種委員・共同研究員等委嘱の件数 その他の件数 計 180 件

研究センター事業推進 方針番号	1-2～3	研究センター目標値番 号	2	担当	アイヌ民族文化研究センター
--------------------	-------	-----------------	---	----	---------------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】

- 展示事業
- 特別展・企画展
- 道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展：仮称）の開催

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮刷）

- アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な機関として、学術的な信頼性の高い研究成果に基づく、わかりやすく・親しみやすい展示を行うとともに、不断にその内容の充実を図り、アイヌ文化の理解促進に努める。
- 特別展・企画展
- 企画テーマ展を開催し、大人から子どもまでさまざまな人々に向けた展示の機会を設ける。
- 道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展：仮称）の開催
- 道内巡回展を開催し、最新の研究成果や当館が所蔵するさまざまな資料を紹介する。

点検項目集計	計	○	3	×	○
	3				

平成30年度

- 平成31年度以降の企画テーマ展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。
- 既にテーマを定めている「地名から見える北海道（仮）」について、北海道庁を150年の翌年であり、象徴空間開設の前年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。

- 平成30年度の巡回展を開催し、平成31年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成28年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。

- 第4回巡回展の開催。
- 平成31年度以降の企画テーマ展、巡回展等の開催計画の策定。特別展開催に関する検討。

- 【判断数値設定】有
- 第10回企画テーマ展の来場者数
- 企画テーマ展、巡回展ごとの満足度（96％）

項目別評価（平成30年度の実施状況）

達成状況

- 企画テーマ展・特別展
 - 平成30年4月8日まで開催した第10回企画テーマ展「カマイとアイヌのものかたり」では、冬季の企画テーマ展としては比較的多くの来場者を得ることができ、満足度も90％を超えることができた。
 - 館内における平成31、32年度の企画展示の策定に当たり、アイヌ文化が軸となるテーマやアイヌ文化を柱の一つとするテーマを提案し、計画案に反映させることができた。

- 第4回特別展「萬葉維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」において、アイヌ民族文化研究センター職員がチームに参画し、アイヌ文化に関する解説等の充実を図るとともに、併設館である三重県総合博物館でのアイヌ文化展示等にも協力した。また会期中には、華広・千歳・取敢の各母会会の協力により、アイヌ民族の伝統芸能公演を実現することができた。

- 第13回企画テーマ展「アイヌ民族の文化財を未来につなぐ」は保存科学の研究成果をテーマとした展示だが、そこで対象とされたアイヌの民衆についての情報提供やアイヌ文化に関する記述等にあたって、アイヌ民族文化研究センターとして協力を行った。

- 平成31年に予定している展示として、「北の手仕事（仮）」「アイヌ語地名と北海道（仮）」とそれぞれテーマを定め、計画を策定し、出展者との調整や開催要項の策定等の準備を着実に進めている。

- 巡回展
 - 第4回アイヌ文化巡回展を上川町（鷹栖町）で、第5回アイヌ文化巡回展を遠軽町で、いずれも「地名」をテーマに開催した。第4回巡回展には8,000名を超える来場者があり、第5回巡回展は開催日程は二週間程度と短かったものの、アイヌ文化の魅力を伝えることにより多くの来場者を得ることができた。
 - 平成31年度以降の開催計画については、いくつかの候補地があるものの、策定は今後の課題である。

- 目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月）
第10回企画テーマ展（2/2～4/8）
「カマイとアイヌのものかたり」

来場者数	7247	人
満足度	90.9	％

第4回 アイヌ文化巡回展 鷹栖町（8/21～9/30）		
来場者数	8792	人
満足度	94.1	％

第5回 アイヌ文化巡回展 遠軽（10/6～10/21）		
来場者数	2164	人
満足度	100	％

北海道博物館中期目標・計画番号	2-2、3-2
-----------------	---------

北海道博物館中期目標・計画項目

- 展示（2）企画展示の開催
- 調査研究（2）アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

北海道博物館中期目標・計画

- 展示（2）企画展示の開催
 - イ 他 の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。
 - アイヌの研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。
 - ウ 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。
- 調査研究（2）アイヌ文化に関わる調査研究の重点化
 - エ 調査研究などの成果をひろく伝えるため、研究紀要の発行や講演会・講座などの開催とともに、総合展示の充実や企画展示の実施などを進め、アイヌ文化に関する理解促進の取組を一層強化する。

北海道博物館中期目標・計画ブライオリティ

H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

平成31年度

年度計画（案）

- 平成31年度の第14回企画テーマ展「北の手仕事」を開催する。また、他の研究グループが主管する企画テーマ展についても、内容に照し参画・協力をはかる。
- 平成31年度に開催予定の特別展「アイヌ語地名と北海道（仮）」について、研究センターからチームに参画し、これまで研究センターにおいて収集・整理・公開してきた資料（山田文庫）等の活用、アイヌ語地名やアイヌ文化に関する内容の充実を図る。

- 平成32年度以降の企画テーマ展、巡回展等の開催計画の策定、および特別展開催に関する検討。
- 平成31年度の巡回展を開催するとともに、平成32年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成30年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。

- 平成32年度以降の、アイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展や企画テーマ展の開催について、検討を継続する。

- 【判断数値設定】有
- 第14回企画テーマ展の来場者数（7,000人）
- 企画テーマ展、巡回展ごとの満足度（96％）

研究センター事業性進 方針番号	2	研究センター目録植番 号	3	担当	アイヌ民族文化研究センター
--------------------	---	-----------------	---	----	---------------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】
2 調査研究事業

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約）
アイヌの民族に関する専門的な機関としての社会的な要請に即応するために、それらの取り組みの基台となる研究プロジェクトを推進していく。

点検項目集計	計	○	×
	○	○	○

	H27	H28	H29	H30	H31
北海道博物館中期目標・計画プライオリティ	◎	◎	◎	◎	◎

平成30年度	平成31年度
年度計画 ・「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。 ・平成29年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。 ・ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバート博物館との共同研究において、アイヌ文化に関する総合性や種分けを整理し、「博物館における先住民文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道地域の地場基の比較検討」「近頃代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。 ・総合的な調査研究や展示等の成果発表の獲得を目指す。	項目別評価（平成30年度の実施状況） 達成状況 ・「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進めた。 ・上記プロジェクトにおける課題に関して、計4件の成果発表をするこができた。 ・平成29年度で終了した個別課題については、その成果の展示等の事業への反映を検討するとともに、成果を踏まえたうえでの新たな課題を設定した。 ・海外共同研究については、今年度はサハリン州立博物館（ロシア）から研究者を招へいする年度であり、研究テーマが自然（生物）分野であったことから、アイヌ民族文化センターとしての役割は十分に果たすことができなかった。ただし館全体の対応業務の中で研究センター職員もそれぞれ可能な範囲で今後の研究交流につながる人的交流をはかることに努めた。 ・アイヌ文化センターにおいて内在する課題と海外共同研究との整合性や種分けなど、引き続き問題が残っているが、アルバータ博物館との間では公的博物館と先住民との関わりのある方について、サハリン州郷土博物館との間ではアイヌ民族文化の地域差等に関する実物資や伝承の比較等の課題の検討も始まっている。 ・外部資金については、日本学術振興会科学研究費補助金についてアイヌ民族文化研究センター職員が研究代表者として獲得した件数は3件に増加した（いずれも基礎（G））。また、サントリ－文化財団の助成金（平成29年8月～平成30年7月）による調査研究では、4月に余市町において公開研究報告会「余市のアイヌ文化を考える」を開催し、また引き続き平成31年7月までの助成を獲得した。 目標（値） 調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる。
目標（値） 調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる。	目標（値）（案） ・「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれ個別課題に沿って進める。 ・平成30年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。 ・ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバート博物館との共同研究において、アイヌ文化に関する総合性や種分けを整理し、「博物館における先住民文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道地域の地場基の比較検討」「近頃代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。 ・総合的な調査研究や展示等の成果発表の獲得に繋がる資金の獲得を目指す。
自己評価 ・研究プロジェクトの計画に沿って、それぞれの個別課題を設定し、研究発表や執筆等の成果を上げることができた。 ・また、終了した課題を踏まえて新規課題について検討し設定した。 ・海外共同研究については、今年度招へいた研究者がアイヌ文化と直接関係ない分野の研究者であったことなどもあり、具体的に何かが進んだわけではない。 ・サントリ－文化財団の助成に係る余市町の研究申請については、当該地域に係る資料やそれに関連する歴史についての専門的知見を提供できる機会として好評を得たと考える。また当日の内容については研究紀要での実施報告も予定しており、研究センターの研究事業として評価できるとしている。 ・上述のとおり一定の成果を上げた一方、調査研究や研究内容を検討する時間の確保については十分に果たせておらず、引き続き課題とする。	評価基準 A
判断数値(設定) 有 ・各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数 ① アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（研究課題4件） ② アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（研究課題4件） ③ 海外博物館等との共同研究プロジェクト（研究課題2件） - 成果発表の目標値＝①+②+③併せて計4件 ・科研等の補助金件数（4件）	判断数値(設定) 有 ・各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数 ① アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（研究課題4件） ② アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（研究課題4件） ③ 海外博物館等との共同研究プロジェクト（研究課題2件） - 成果発表の目標値＝①+②+③併せて計4件 ・科研等の補助金件数（4件）

目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月）

アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト	課題件数	4	件
アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト	成果発表等	2	件
アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト	課題件数	4	件
海外博物館等との共同研究プロジェクト	成果発表等	2	件
海外博物館等との共同研究プロジェクト	課題件数	0	件
科研等の補助金件数	成果発表等	4	件

研究センター事業推進 方針番号	3	研究センター目標値番 号	4	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	3-2
--------------------	---	-----------------	---	----	---------------	-----------------	-----

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】	
3 資料・情報の収集・整備事業	北海道博物館中期目標・計画項目 3. 調査研究 (2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約）	
ア 道内外の関係機関、研究者との連携を図り、アイヌ文化に関する資料の収集・整理を行う。	北海道博物館中期目標・計画 アイヌ関係機関や研究者、丘城活動関係者などとの連携により、道内各地のアイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、整理・保存作業を行う。
イ 道内の中学校や博物館における専門機関として、先ず道立機関が所蔵する音声・映像資料及び文書資料、民謡資料についての情報を一元的に集約を進める。	
ウ さらに道内市町村に所在する各種の資料に重点を置き、総合的、体系的に調査・収集を進める。	
点検項目集計	

計	○	×
4	4	0

北海道博物館中期目標・計画ブライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
◎	◎	◎	◎	◎	◎

平成30年度			項目別評価（平成30年度の実施状況）		平成31年度									
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）								
・未整理資料の整理・データ登録・配架について平成31年度までに完了させる計画を策定し、実施する。 ・平成28年度に受け入れたキーステン・レフジン資料等の整理を進める。 ・研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。	・資料の整理・登録・配架の策定 ・計画に基づく資料登録の実施 ・新収蔵資料紹介の継続的実施 ・資料の所在調査等の継続実施	・統合・リニューアル時に未整理であった旧北海道博物館記念館資料の整理・登録については、平成29年度までに取り置き準備を整えたものを登録し、今年度は後述のとおり館の資料収蔵データベースへの登録にも着手している。ただし、なお未整理のものが多く残されている。 ・旧道立アイヌ民族文化研究センター資料については平成28年度までに寄贈資料等を優先して管理整理等必要最小限度の移行作業を行っていったが、今年度から職員採録資料についても、北海道博物館資料番号の付与や館蔵資料データベースへの登録等に着手している。 ・旧道立アイヌ民族文化研究センター資料のうち、実質的な整理作業が未着手であった民謡資料については平成29年度までに大まかな内容点検を行い、今年度から整理・登録作業に着手している。 ・平成27年4月以降に受け入れた資料についても、今年度はさらに館蔵資料データベースに登録している情報の補足、充実化に着手している。またそれらの中で平成28年度に受け入れたキーステン・レフジン資料は、原資料がオーディオテープ等のアナログ音声資料であることから、今年度からまずデジタル化による保存に着手しており、次年度以降も継続して保存・整理作業を進める。 ・資料収集については、研究プロジェクトや巡回展と計画的に関連づけた調査・収集はあまり実施できなかったが、調査研究や資料整理の中で新たに幾つかの貴重な資料の所在を確認できた例や、寄贈を受けることができた例があった。 ・新たに収集・登録した資料は1件、資料寄贈の意向を得て収集について館の合意を見たものは2件である。 ・新たに受け入れた資料の情報をより速やかに提供するため、『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』における「新着資料紹介」は昨年度から、研究センターとして枠組みを設けたが、今年度も継続している。	・資料の収集・整理及び速やかな情報提供等については、平成27年度以来の課題であった館蔵資料データベースへの登録について着手できたことが今年度の大きな前進である。 ・新たな資料についても、貴重な資料や既存の館蔵資料の情報を補いより豊かにすることができるとともに、整理作業が遅延している資料も多いこと、研究プロジェクト等における資料所在調査等の位置づけは、個々の課題において着目し一部実施したのももあるが、プロジェクト全体の中での検討や計画的な遂行などなお課題を残している。	B	・未整理資料の整理・データ登録・配架について平成31年度までに完了させる計画を策定し、実施する。 ・平成28年度に受け入れたキーステン・レフジン資料等の整理を進める。 ・研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。	・資料の整理・登録・配架の策定 ・計画に基づく資料登録の実施 ・新収蔵資料紹介の継続的実施 ・資料の所在調査等の継続実施								
		【判断数値設定】 有 ・新たに登録する資料の件数（二未処理のままでの資料の残数の段階的解消）（2資料群） ・収集する資料の件数（4件） ・資料の所在調査等の実施件数（10件）	目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月） <table><tr><td>新たに登録した資料の件数（未処理資料の解消）</td><td>0</td><td>件</td></tr><tr><td>収集した資料の件数</td><td>2</td><td>件</td></tr><tr><td>資料の所在調査等の実施件数</td><td>18</td><td>件</td></tr></table>	新たに登録した資料の件数（未処理資料の解消）	0	件	収集した資料の件数	2	件	資料の所在調査等の実施件数	18	件		
新たに登録した資料の件数（未処理資料の解消）	0	件												
収集した資料の件数	2	件												
資料の所在調査等の実施件数	18	件												

研究センター事業推進方針番号

4-1

研究センター目標値番

5

担当

アイヌ民族文化研究センター

研究センター目標・計画番号

3-2

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】

4. 資料・情報等の公開・提供事業

1) 資料の公開

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約）

ア 寄贈を受けた「山田秀三文庫」、「久保寺逸彦文庫」や職員による採録資料（録音、録画等）について保存処理や内容整理を進める。

イ アイヌ文化の学習・伝承等のため利用できるよう、目録の作成や資料の公開を進める。

ウ インターネット上に開設した「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料や提供内容や機材など、より多くの利用者に広く提供できる方法の拡充につとめ、アイヌ文化研究における情報センターとしての機能の充実を図る。

点検項目集計

計	4	○	4	×	○
---	---	---	---	---	---

北海道博物館中期目標・計画項目

3. 調査研究

(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

北海道博物館中期目標・計画

ウ 調査研究などを通じて収集した未公開の資料や研究情報については、その公開を進め、アイヌ文化の継承、学習、研究などに広く活用できるよう整備を進める。

北海道博物館中期目標・計画ブライオリティ

H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

平成30年度

年度計画

・資料公開手続きを再開（実施）する。
 ・公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。

目標（値）

・資料群ごとの公開計画の策定
 ・計画に基づく新規公開の実施

【判断数値設定】

有

・公開する資料件数（3件）

・資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）（25件）

項目別評価（平成30年度の実施状況）

自己評価

・資料の公開準備を著実に進めており、総合時からアイヌ語アーカイブ未登録資料の処理も進めることができたが、なお未公開のものが多く残っており、中長期的な公開計画の検討・策定等の課題を残している。

達成状況

・平成28年度末に定めた資料の採録から公開までの手続きに関する要領に基づき、平成30年度は職員採録資料5点について公開準備を進めている。
 ・「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の録音や筆録ノート等の、個人情報や著作権を含む資料についての、資料の寄贈者や関係者との協議も、ここ数年の統合・リニューアルに伴う作業をへて、ようやく整理・公開に向けた協議へと進みつつある。
 ・公開している音声・映像資料の検索と一部の試聴ができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」については、平成27年度の統合後も旧連立アイヌ民族文化研究センター時代と同じ状態になっていたが、今年度に改修（北海道博物館のサイトとして体裁等を整備）と拡充（新規公開資料の追加等）に着手している。

評価基準

B

年度計画（案）

・資料公開手続きを再開（実施）する。
 ・公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。

目標（値）（案）

【判断数値設定】

有

・公開する資料件数（5件）

・資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）（20件）

平成31年度

年度計画（案）

・資料公開手続きを再開（実施）する。
 ・公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。

目標（値）（案）

【判断数値設定】

有

・公開する資料件数（5件）

・資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）（20件）

目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月）

公開した資料件数	5	件
資料閲覧件数	17	件
(内訳)		
全体	17	件
文書	4	件
音声・映像	7	件
民具	6	件

48

研究センター事業推進
方針番号

4-2

研究センター目標値番
号

6

担当

アイヌ民族文化研究センター

北海道博物館中期目標・計画番号

12-1

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】

4. 資料・情報等の公開・提供事業

2) 情報発信

(1) 学術情報の集約

(2) 発信基盤の整備

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（総約）

（1）学術情報の集約

・これまでの調査・研究事業及び資料・情報の収集・整理事業を通して蓄積されてきた学術情報の集約を図る。

① アイヌ文化に関する学術情報の収集とデータベース化

② 道内の市町村と連携した情報の集約

（2）発信基盤の整備

・インターネット等を通して提供方法の拡充などより広く情報を提供できる発信基盤の整備に努める。

① アイヌ文化関係の学術情報の発信

② ホームページの充実

③ 発信媒体の強化

北海道博物館中期目標・計画

アイヌ文化に関する資料及び学術情報を一元的に集約し、そのデータベース化を進める。

イ これらの成果については、さまざまな媒体や機会を通して提供を進め、北海道博物館がアイヌ文化の継承、学習、研究に
とっての情報センターとしての役割も果たすことができるよう、そのための機能の充実を図る。

北海道博物館中期目標・計画

1.2 情報発信

(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信

北海道博物館中期目標・計画

H27

H28

H29

H30

H31

北海道博物館中期目標・計画

◎

◎

◎

◎

◎

北海道博物館中期目標・計画

H27

H28

H29

H30

H31

北海道博物館中期目標・計画

◎

◎

◎

◎

◎

平成30年度

年度計画

(1) 学術情報の集約

・収蔵資料のデータ整備を行う。

・北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

(2) 発信基盤の整備

・現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイトを及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する（ウェブサイト上のページ・コンテンツの設定等）

・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。

目標（値）

・ウェブサイトを（ホームページ）の更新計画の策定

・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料・コンテンツの追加

達成状況

(1) 学術情報の集約

・収蔵資料のデータ整備については、館の収蔵資料情報の管理・公開の基幹である、収蔵資料データベース（IBミュージアム）への資料情報の登録について、統合時からの進捗分の解消を進めている。

・次期システムの後継に着手していくことしたが、特段の進捗はない。

・北海道によるこれまでのアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約について、関係機関との協議や情報整備などが必要であるが、特段の進捗を見ておらず、引き続き検討すべき課題として残っている。

(2) 発信基盤の整備

・旧道立アイヌ民族文化研究センターのウェブサイト及びアイヌ語アーカイブについては、統合時から未更新であったが、今年度から2年間の計画でこれらの改修・整備に着手した。

・ウェブサイトについては、北海道博物館のウェブサイトにおいてアイヌ民族文化研究センターとしての情報発信を行うため、平成30年度はまず旧北海道立アイヌ民族文化研究センターのウェブサイトについて残すべき項目や内容、削除できる項目の仕分けを行った。

・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定し、新資料番号の項目の設定の検討等、準備を進めた。

目標（値）

【判断数値設定】

有

・ホームページにおけるアイヌ文化コンテンツの更新・追加件数（9件）

目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月）

ホームページにおけるアイヌ文化コンテンツの更新・追加件数

0 件

平成31年度

年度計画（案）

(1) 学術情報の集約

・収蔵資料のデータ整備を行う。

・北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

(2) 発信基盤の整備

・北海道博物館ウェブサイト全体の中にアイヌ民族文化研究センターからの情報発信等を位置付ける（具体的には旧センターウェブサイトの内容の移行や、今後の新たな情報発信に向けたさまざまな設定等）。

・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備・運用を引き続き進める。

目標（値）（案）

・ウェブサイトを（ホームページ）の更新計画の策定

・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料・コンテンツの追加

達成状況

(1) 学術情報の集約

・統合時から未着手であった旧ウェブサイト及びアイヌ語アーカイブの改修・整備に着手したことは今年度の新たな前進である。

・ただし、次年度も含めこれらの計画を迅速に実行すること、資料情報や学術情報の公開を進めること等の課題が残っている。

・また、このことに関わる関係機関等との情報共有・整備についても特段の進捗が得られず、これらのことを調整して、関係機関等と連携して進めるべきと判断した。

目標（値）

【判断数値設定】

無

研究センター事業推進 方針番号	5-2	研究センター目標値番 号	9	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	9-1、12-1、14-1
--------------------	-----	-----------------	---	----	---------------	-----------------	---------------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】							
5 成果の普及事業							
2) 研究成果の提供							

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（締約）							
ア 研究成果をとりまとめた研究紀要等の成果報告書を刊行していく。							
イ 研究成果を踏まえた講演会の開催など、アイヌ文化に関する最新の研究成果や正確な情報をよりわかりやすいかたちで提供する取組を一層強化する。							
ウ さまざまな取組を通じて、北海道博物館の内部組織としてのアイヌ民族文化研究センターの取組を周知していく。							
① アイヌ文化紹介小冊子 ② リーフレットなど							

点検項目集計	計	○	×
	3	3	0

平成30年度		項目別評価（平成30年度の実施状況）		平成31年度																			
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）																		
・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号を刊行する。 ・調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。 ・必要に応じて『アイヌ文化紹介小冊子』各巻の増刷を図るとともに、小冊子収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。 ・「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。	研究紀要、企画テーマ展等を通して研究成果を構造的に発信し、その内容を充実させる。 【判断数値設定】 有 ・「ちゃれんがニュース」の記事数（6件） ・他機関の機関紙等での記事の掲載数（3件） ・道内市町村等との連携・協力件数（サイエンスパーク等）（1件） ・新聞・報道対応件数（1件） ・講演依頼件数（10件） ・各種委員への就任件数（7件）	・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号は、平成31年1月までに掲載内容（全8本の稿等）を確定した。アイヌ民族文化研究センターのうち非掲載を含め4名による原稿8件のほか、4月に余市町で開催した公開研究会の報告原稿1件を掲載する予定。 ・昨年度末から今年度当初にかけて実施した第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものごたりに」において、アイヌ口承文芸に関する研究成果やこれまでに培った専門的知見を反映させた。 ・平成31年度以降の展示計画については、これまでの収蔵資料整理の見込みもの（「お祭式」展）等、や調査研究の成果の応用を促進させるもの（「地名」展等）を契機として従来の研究課題と関連させつつ新たな資料調査の取組を図るもの（「北海道神宮」展）等の計画策定と検討を進めている。 ・全体的に掲載が減少となっていた『アイヌ文化紹介小冊子』について、アイヌ文化に関する情報発信充実の一環として、1～9巻全冊の増刷を実施した（8～11月に増刷にあたっての内容点検、1月入稿済み）。次年度はこのPDFファイルを当館ウェブサイトにも登録する予定。 ・広報紙「森のちゃれんがニュース」の「アイヌ民族文化研究センターだより」のページにおいて、公開研究会や巡回展、アイヌ文化紹介小冊子の改訂増刷など、アイヌ文化に関する事業や出版物、職員への調査研究に関する報告等を発信した。 ・『研究紀要』への投稿内容やその他の研究成果の発表について、研究センターとして検討する機会として、年度当初の研究計画の検討と中間報告という年2回を設けた。	・『研究紀要』の発行や広報紙の活用については所期の目標を達成するとともに、より一層の内容充実をはかることができた。 ・小冊子の改訂増刷を実施する運びとなったことは評価できると考える。 ・研究計画の中間報告の機会を設け、調査研究の進捗な実施に向けて検討することができたことは評価できると考える。 ・依頼に応じた講演や執筆、外部との協力等について、本務に支障のない範囲で可能な限り対応した。	A	・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第5号を刊行する。 ・調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。 ・『アイヌ文化紹介小冊子』の配布・活用を図るとともに、小冊子収録の学習情報をウェブサイトに掲載する。またウェブサイト上において、新たに学習のための情報を随時掲載していく。 ・北海道博物館の広報紙「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。																		
	目標（値）実績（平成30年4月～平成31年1月）		<table><tr><td>「ちゃれんがニュース」の記事数</td><td>4</td><td>件</td></tr><tr><td>他機関の機関紙等での記事掲載数</td><td>0</td><td>件</td></tr><tr><td>道内市町村等との連携・協力件数</td><td>2</td><td>件</td></tr><tr><td>新聞・報道対応件数</td><td>0</td><td>件</td></tr><tr><td>講演依頼件数</td><td>7</td><td>件</td></tr><tr><td>各種委員への就任件数</td><td>8</td><td>件</td></tr></table>				「ちゃれんがニュース」の記事数	4	件	他機関の機関紙等での記事掲載数	0	件	道内市町村等との連携・協力件数	2	件	新聞・報道対応件数	0	件	講演依頼件数	7	件	各種委員への就任件数	8
「ちゃれんがニュース」の記事数	4	件																					
他機関の機関紙等での記事掲載数	0	件																					
道内市町村等との連携・協力件数	2	件																					
新聞・報道対応件数	0	件																					
講演依頼件数	7	件																					
各種委員への就任件数	8	件																					

中興目録・企画番号		目録植番号	24	担当	総務部総括グループ
-----------	--	-------	----	----	-----------

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31

点検項目集計			
計	○	×	
○	○	○	

備考
平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。

平成30年度	平成31年度
年度計画	年度計画(案)
目標(値)	目標(値)(案)
課題の共有と解決	課題の共有と解決
・意思決定機関としての機能をより高めるため、懸案事項等の臨時把握などにより協議事項の速い出しを行うとともに、運営会議のスムーズな運営のため特に資料に資料のすりみ化等を徹底する。 ・博物館の課題等について、本庁と情報を共有し適切な連携のもとと解決を図るため、定期的な打合せを行うなどとして文化振興課との連携を強化する。	・意思決定機関としての機能をより高めるため、懸案事項等の臨時把握などにより協議事項の速い出しを行うとともに、運営会議のスムーズな運営のため特に資料のすりみ化等を徹底する。 ・博物館の課題等について、本庁と情報を共有し適切な連携のもとと解決を図るため、定期的な打合せを行うなどとして文化振興課との連携を強化する。
・事業の着実な推進を図るため、より実効的な事業の整理方法を検討し、重要かつ優先的に取り組む事業について予算要求へつなげるとともに、運営会議の場等における進捗管理を適切に行う。	・事業の着実な推進を図るため、より実効的な事業の整理方法を検討し、重要かつ優先的に取り組む事業について予算要求へつなげるとともに、運営会議の場等における進捗管理を適切に行う。
【判断数値設定】	【判断数値設定】
無	無
・博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関へのPRを図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受け入れ体制の整備を進める。	・博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関へのPRを図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受け入れ体制の整備を進める。

研究センター事業推進方針番号		研究センター目標値番	10	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	
外部評価項目 2 研究センター内の意思決定機関の育成							
備考 平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、研究センター事業推進方針及び中期目標・計画とは別に設定した項目である。							

点検項目集計	計	○	×
	6	5	1

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ			
H27	H28	H29	H30
			H31

平成30年度			項目別評価（平成30年度の実施状況）			平成31年度		
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）		
・アイヌ民族文化研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。 ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下で各検討会議を遂行しつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長、研究主幹及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。 ② 研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。 ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。	研究センター会議（副館長・センター長・非常勤職員）の会議／職員全体の会議等）の定例化	① 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集方針等の調査研究上の主要な案件については、常勤職員による打合せと並行して、副館長・センター長・研究主幹及び非常勤研究職員による打合せも適宜開催し、事業方針の検討ならびに事業の進捗状況の確認等を行った。 ② 週1回のペースで研究センターの定例打ち合わせを実施し、情報の共有に努めた。ただし、参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有については、打ち合わせ時の資料配付にとどまり、結論等の共有については実施できていない。 ③ 学芸部・総務部業務の緊急度・優先度を勘案しつつ研究センターでの会議や研究業務を進めるよう努めてはいるが、研究業務に配分できる時間はなお確保が十分ではない。	① 案件の内容に際し、研究センター職員による協議と、管理職員及び特別雇非非常勤職員による打合せとを実施する等、館の運営に配慮した検討体制をとることができた。 ② 職員による打合せは週1回としてほぼ定例化し、業務の効率的な検討と推進を支える態勢をとるようにした。 ③ 引き継ぎ、学芸部業務と研究業務（本項との関わり）では研究計画等に関する組織的な協議体制）や資料の日常的な整理業務との面立等の課題が残っている。	A	・アイヌ民族文化研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。 ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下で各検討会議を遂行しつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長、研究主幹及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。 ② 研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。 ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。	研究センター会議（副館長・センター長・非常勤職員）の会議／職員全体の会議等）の定例化		

中期目標・計画番号	目標値番号	25	担当	環境生活部文化局文化振興課
-----------	-------	----	----	---------------

外部評価項目	フライオリティ
ガバナンス態勢の育成	H27 H28 H29 H30 H31
3. 道庁の支庁体制の育成	

備考	平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対して別に設定した項目である。
----	---

点検項目集計	計	4	○	4	×	0
--------	---	---	---	---	---	---

平成30 年度		項目別評価 (平成30 年度の実施状況)		平成31 年度	
年度計画	目標 (値)	達成状況	自己評価	年度計画 (案)	目標 (値) (案)
・博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。	課題の共有と解決	・「北海道博物館赤れんがサテライト」に関する事項 「北海道博物館赤れんがサテライト」の展示については、より博物館への誘導力のある空間とするため、博物館に提案等を行っているが、今年度についても、総合展示だけでなく、特別展や企画展を紹介する展示も随時実施した。また、昨年度に引き続き、本館で導入している外国語対訳システム「フリ」ポケット等基盤」をこれらの展示で活用した結果、特別展等への誘客が図られた。 ・博物館の総合展示及び特別展示等に関する事項 入場者の増加を図るため、特別展示や企画展、博物館主催イベントについては、開催期間前に博物館と情報共有し、本館において報道発表を行った。 ・北海道札幌市の村の整備に関する事項 北海道札幌市の村、歴史的建造物の保存・再生に向けた研修拠点として民間団体等に活用してもらったため、博物館と情報共有しながら、国の地域創生拠点整備交付金を活用した旧龍震寺、旧表段家住宅の改修工事を行った。 また、旧武井商店遺跡、旧三河本そは屋の補修工事実施設計については、道有建築物修繕の建設的実用化にともない、建設部との協議を実施して進めた。	・「北海道博物館赤れんがサテライト」については、より効果的に博物館への誘導がなされるよう、博物館と協働して提案等を行ってきたことは評価できる。 ・博物館の特別展示、各イベントについては、博物館と情報共有し、積極的に報道発表を行い、入場者の増加が図られたことは評価できる。 ・博物館や市内担当部署と連携し、国の交付金を活用して、老朽化が進んでいた、旧龍震寺や旧表段家住宅の改修を進めたことは評価できる。 ・「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の策定に当たっては、博物館の行内検討会議への参画など情報を共有しながら手続を進めることができたことは評価できる。 今後は、策定された構想に基づき博物館と連携しながら具体的な取組を進めたい。 ・次期指定管理者の指定に当たり、公募要項の作成や、現地説明会、協定書の締結等役割分担しながら、円滑に進められたことは評価できる。	・博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。 ・赤れんが庁舎のリニューアルに向けて、平成31年9月末に赤れんが庁舎が開館されることから、「北海道博物館赤れんがサテライト」の撤去や、リニューアル後の歴史・文化に係る展示について、関係課や博物館と調整し、取り組んでいく。 ・「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」について、構想策定後は、その実現に向けて様々な取組を進めていくことになるが、博物館と役割分担を行った上で、互いに連携協力して取り組んでいく。	・課題の共有と解決
【判断数値設定】	無	・「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の策定に当たっては、博物館の行内検討会議への参画など情報を共有しながら手続を進めることができたことは評価できる。 今後は、策定された構想に基づき博物館と連携しながら具体的な取組を進めたい。 ・次期指定管理者の指定に当たり、公募要項の作成や、現地説明会、協定書の締結等役割分担しながら、円滑に進められたことは評価できる。	・「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の策定に当たっては、博物館の行内検討会議への参画など情報を共有しながら手続を進めることができたことは評価できる。 今後は、策定された構想に基づき博物館と連携しながら具体的な取組を進めたい。 ・次期指定管理者の指定に当たり、公募要項の作成や、現地説明会、協定書の締結等役割分担しながら、円滑に進められたことは評価できる。	【判断数値設定】	無

